

# 會 報

第 16 号



滋賀県レイカディア大学同窓会



レイカディア大学校歌  
レイカディア讃歌

一、近江の最中 青き湖

ささなみ寄せる軽き音

いつまでも尽きることなき

その思い ともに学ばん

さわやかに レイカディア

レイカディア

わがレイカディア

二、青垣つらね鈴鹿比良  
峰にたわむる白鳥の

いつまでも果つることなき

喜びを ともに遊ばん

うるわしく レイカディア

レイカディア

わがレイカディア

レイカディア

三、淡海映す蒼き空  
宇宙が見せる深き貌

いつまでも消ゆることなき

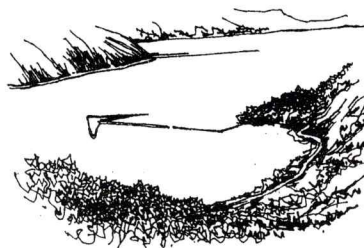
その真実 ともに生きなん

かぎりなく レイカディア

レイカディア

わがレイカディア

レイカディア



高城 修三 作詞  
下村 正勝 作曲  
廣瀬 量平 補作

さわやかに *mf*

1. おおみ のも な か あ お き う み  
2. あおか のき つら ね す あ す ず か ひ ら  
3. あわ う み う つ す あ お き そ ら

さ さ な み よ せ る か し ろ ー き お り と の  
み ね に た わ む る か し ろ ー き お り と の  
う ちゅう が み せ る ふ か き か お

1~3. いつまでも つきることなき そ の お も い と も  
はつることなき そ よ ろ こ び を と も  
きゆることなき そ の ま こ と と も

に ま な ば ん さ わ ー や か し に く 1~3. レイ  
に ま な ば ん さ わ ー や か し に く  
に ま な ば ん さ わ ー や か し に く

カ デイ ア レイ カ デイ ア わが レイカ デイ ア ア

# 目 次

同窓会報「第十六号」の発刊に寄せて

滋賀県レイカディア大学  
学長 稲葉 稔 …… 1

会長就任と会報「第十六号」の発刊について

滋賀県レイカディア大学  
同窓会会長 佐々木尚一 …… 2

同窓会憲章 …… 4

二十年の歴史 …… 5

在校当時の思い出・エピソード

**八幡校** 老大二十年前の思い出

一期生園芸学科 大津支部 下司 清 …… 9

開校当時の思い出

一期生陶芸学科 近江八幡支部 谷口 光子 …… 10

記念の年に

二期生生活学科 近江八幡支部 宇野よしゑ …… 11

**大津校** 老大生の頃

四期生陶芸学科 大津支部 大林 重信 …… 13

在学中の思い出

五期生園芸学科 守山・野洲支部 井上 一男 …… 14

老大時代の思い出

五期生園芸学科 湖東支部 西澤 正三 …… 14

入学の動機と在校時の思い出

二期生文芸学科 湖南支部 伊藤 重一 …… 16

**米原校** 私の青春

十一期生生活学科 中部支部 中村 春美 …… 17

諺に学ぶ

十一期生園芸学科 湖東支部 西堀 嘉一 …… 18

在校当時の思い出

十一期生文芸学科 湖北支部 田中 茂 …… 19

振り返って、同窓会への期待

十七期生文芸学科 湖南支部 児玉 薫 …… 20

水口碧水荘で学ぶ

十七期生文芸学科 甲賀支部 城 宏衛 …… 21

私の選んだ生涯学習

十六期生文芸学科 高島支部 川元 繁雄 …… 22

平成十年定期総会報告

平成十年定期本部役員名簿 …… 24

平成十年定期本部役員名簿 …… 28

会 則 …… 29

同窓会のあゆみ …… 32

支部活動便り …… 33

大津支部の活動状況について

副支部長 谷本 一夫 …… 33

湖南支部の活動について

副支部長 奥村常治郎 …… 35

守山・野洲支部の活動状況

副支部長 辻本 昇 …… 36

甲賀支部の活動

支部長 今井 博 …… 37

近江八幡支部の事業運営と活動状況の報告

支部長 佐々木尚一 …… 38

支部長 武久 四郎 …… 40

支部長 磯貝 澄雄 …… 41

支部長 林 憲雄 …… 43

支部長 志連政五郎 …… 45

**草津校**

支部長 志連政五郎 …… 45

# 目次

## 随筆

色即是空

大津支部 八期生園芸学科 村田小太郎 …… 46

ささやかな動きの中の喜び

大津支部 十五期生文芸学科 関 武 …… 47

戦の日々

湖南支部 十三期生文芸学科 堀池 栄一 …… 48

楽しい仲間

湖南支部 十五期生陶芸学科 鷹野 弘 …… 49

まだまだ現役

守山・野洲支部 五期生文芸学科 川嶋 勇 …… 50

手づくり「紙芝居」a.Ia.Carte

守山・野洲支部 九期生陶芸学科 中村 勝一 …… 50

老いの感動

甲賀支部 十四期生園芸学科 林 茂男 …… 52

戦争と俳句

甲賀支部 十五期生文芸学科 千代 岳夫 …… 53

私の生きがい

近江八幡支部 十五期生スポレク学科 馬場 利 …… 54

輝いていた(過去をふまえて)

中部支部 十二期生生活学科 野玉 一子 …… 56

四国八十八ヶ所巡拝の旅

中部支部 十四期生生活学科 河瀬 チエ …… 57

高齢者の健康維持に役

湖東支部 十五期生スポレク学科 小林 龍男 …… 57

## 湖南省交流の旅

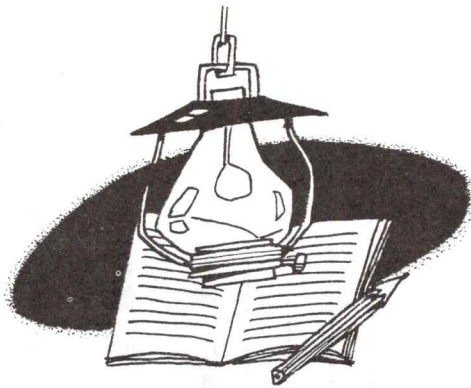
湖北支部 十一期生スポレク学科 堀田 肇 …… 58

私と老人クラブ

高島支部 十五期生園芸学科 万木 伸 …… 60

物故者を悼む

編集後記 …… 62





## 同窓会報「第十六号」の発刊に寄せて

滋賀県レイカディア大学

学 長 稲 葉 稔

(財団法人滋賀県レイカディア振興財団 理事長)

滋賀県レイカディア大学同窓会会報の発刊にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

同窓会の皆様方には、平素より、滋賀県レイカディア振興財団の事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、レイカディア大学は、昭和五十三年九月に老人大学校として近江八幡市において産声をあげて以来、大学運営の充実に努め、今年、創立二十周年を迎えたわけでございます。

もとより、本学の建学精神は、「地域社会のリーダーたれ！」ということでございます。創立二十周年を機に、あらためてこの精神を思いおこしていただきたいと思うのであります。

こう申しますのも、高齢者の方々がこれからの地域社会のなかで主役として期待されているからでございます。すなわち、レイカディア大学で学び、そして卒業された皆様方が、それぞれの立場で、地域活動のリーダーとして積極

的に社会参加していただきたいという願いなのでございます。

いまや「人生八十年時代」という長寿の時代を迎えており、一人ひとりがいかに充実して生きるかが重要な課題とされるようになってまいりました。また、生活や環境を含めて社会全体の質をどう高めていくか、生き方の質も問われる時代でもあります。

レイカディアとは、生き生きと明るい長寿社会を拓く湖の理想郷を意味しております。同窓会の皆様方におかれましても、理想の長寿社会「レイカディア」の実現に向かって、中心的な役割を担っていただけるものと期待いたしております。私ども滋賀県レイカディア振興財団も、微力ながら、高齢者の方々の生きがいづくり、健康づくり、そして社会参加のお手伝いをしてまいります。どうか今後とも、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の今後のますますのご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、発刊によせてのご挨拶とさせていただきます。

# 会長就任と会報「第十六号」の発刊について

滋賀県レイカディア大学

同窓会会長 佐々木 尚 一

今年は連日続いた猛暑も九月になると、秋雨前線の影響にて大雨警報と台風の通過で、各地に被害が出るなど大荒れの日々が続きました。琵琶湖からの爽風にやっと凌ぎ易く、虫の声に秋の気配をようやく感じるようになりました。同窓会会員の皆様にはその後お変わりなく益々ご健勝にてご活躍の事何よりとお喜びを申し上げます。

さて、凶らずも今年度の総会において、一七〇〇人の会員を要し、開校二十周年を迎えた栄光と伝統のある同窓会の会長をご推挙頂いて身の引き締まる思いであります。

歴代の大物会長の後任としては余りにも浅学非才で何の取り柄もなく、然も高齢の身で皆様には大変ご迷惑をお掛けする懸念が多々あらうかと存じます。

幸いにも会員皆様の温かいご理解とご声援を頂いて、誠心誠意ご期待にお応えする所存でありますのでどうか宜しくお願いを申し上げます。

レイカディア大学もご案内の通りに今年度から機構改革により、レイカディア振興財団の運営となり、活力と潤いに満ちた理想の長寿社会の実現（レイカディア構想）の

生みの親である稲葉前知事が理事長に専任され、併せて学長を兼任されることになり、誠に時宜を得た処置として当校発展に寄与されるものと大いに歓迎を申し上げます。

今後同窓会の運営にも財団並びに大学当局との協力関係が一層緊密化して、又支部長始め役員間の交流も多くなり仲間意識が一層強化されて効果が多いに期待されます。

今年度の事業計画と共に役員構成と役割分担の強化により組織の活性化を図り、役員の創意による事業運営の推進を念願しておりますので、会員の皆様方の格段のご理解とご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

今年度も本部会報第十六号が発刊される事になり、会員の皆様の情報交換と自己研鑽の趣意に賛同されて続刊を重ねられる熱意に敬意を表しお慶びを申し上げます。

本年度は開校二十周年の意義ある年であります。記念事業の一環として五月に滋賀県と中国湖南省との友好協定締結十五周年の記念大会に参加を兼ねて、先方の老人大学生との親善交流を目的にして、同窓会と在校生で訪中団の参加を企画される事になり、私も最長老ながら仲間の一員

にして頂いて色々の見聞と友好親善の体験をして来ました。

同窓会としても、別途に記念事業として顕彰の方法を大学側と協議の結果、大学の校旗を贈呈する事を役員会に諮り新調する事にしました。やっと十月の入学式に新しい校旗で新入生の皆様を迎える事が出来て、記念行事の有意義な顕彰に深く感激しております。

栄光の象徴として本校の益々の発展を祈念し末永く活用されん事を願っております。

今般十九期生の皆様にはめでたく卒業を迎えられ心から祝福を申し上げます。早速本同窓会に入会して頂き、新進気鋭の新しい仲間を迎えて、皆様と一緒に地域社会に貢献する事業活動を展開したいと考えております。皆様のご健闘を宜しくお願い致します。

これからも「しなやかに」残された余生を、会員相互の親睦を大切にして、地域社会の福祉活動に貢献されん事を祈念しております。

「たった一人の自分、たった一度の人生です、長く生きることではなく、良く生きること」人生八十年時代、二十一世紀はもう直ぐです。生きる喜びに感謝して頑張りましょう。

なお、今後の同窓会の運営についても、役員始め会員の皆様のご鞭撻とご支援を心からお願い申し上げます、会報第十六号の発刊に際して謹んでご挨拶を申し上げます。



(写真中央 佐々木同窓会長・稲葉校長に校旗贈呈)

## 滋賀県レイカディア大学同窓会憲章

- 一、互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高めよう。
- 一、心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、高齢社会の支柱となって働こう。
- 一、古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の健全な発展に尽くそう。
- 一、会員の研修及び母校の発展に寄与する活動を積極的、持続的に推進しよう。
- 一、社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、提携し合う輪を内外に広めよう。

平成六年七月十一日制定

滋賀県レイカディア大学同窓会



## 滋賀県レイカディア大学（老人大学校） 二十年の歴史

滋賀県老人大学校は昭和五十三年七月十四日県老人クラブ連合会がその運営を委託され、近江八幡市に於て発足される事になり、学生の募集が行われ同年九月二十九日に農協会館において開校式が挙行された。当初二百十二名の応募者の中から抽選によって、八十名が第一期生として選ばれて入学する事になった。当時八幡中央公民館を教室にして毎月第一、第三火曜日の午前十時から午後三時まで、一般教養講座と選択講座として園芸、福祉、陶芸、生活科学の四学科で各定員二十名で授業が開始された。（当時の新聞参照 八ページ）

福祉学科は翌年の募集から廃止される事になり、同学科の十一名が一年で卒業をした。翌年の募集からその代わりに文芸学科が新設され、第二期生の入学式が新設の市民文化会館にて行われた。昭和五十五年に二年制に在籍した（当初は一年の卒業制度で発足した）開校時の第一期生六十七名が初の卒業式をめでたく迎えて地域社会に貢献する事になった。

（現在第一期生二十数名の方達が健在にて、同窓会活動に色々のご指導を頂いている）

昭和五十六年に諸般の情勢により校舎を大津市に移転される事になり、県庁の厚生会館（合同研修の場合は農協会館等を使用）を教室として活用される事になった。

昭和六十三年十月に湖北や湖東地区から校舎開設の長の要望が実現することになって、米原校が開校され、産業文化交流会館を教室として、園芸、生活科学、文芸とスポーツ、リクエーション学科（新設）の四学科で第一期生定員八十名の授業が開始された。

平成五年八月に草津市南笠町に長寿社会福祉センター（レイカディアセンター）が完成オープンして、レイカディア振興財団に大学の運営が移管される事になり、校舎を同センターの施設を教室に利用して、十月の十六期生の入学式に併せて校名を『滋賀県レイカディア大学』に変更され、米原校と共生しながら名実共に新生大学に相応しい建学の理念である、明るく活力ある長寿社会づくりを志向する地域活動を推進するリーダーを養成する人づくりの学府として啓発される事になった。爾来幾多の試行錯誤を重ねながら県当局の「レイカディア」構想実現に格段のご配慮と大学当局の献身的なご努力によって、開校以来二千四百

有余名の卒業生を送り出し、開校二十周年をめでたく迎えて、この業績を顕彰すると共に輝かしい栄光の歴史を重ねてきた経緯に敬意を表したいと思ひます。

本年度県の機構改革により大学の運営はレイカディア振興財団の直轄となり、湖国の理想郷「レイカディア」構想を知事として自ら提唱されその実現にご努力され、ご理解の深い、その生みの親がこの度名実共に本学の学長として運営をお願いすることになり、大変喜ばしい限りであります。本年十月開校二十周年の記念の年に新鋭の二十一期生の入学を迎えて、これを契機に本校の益々の発展に寄与する為に更なる努力を祈念しております。

本大学の運営と共に、私達卒業生が同窓会活動を通じて建学の理念である地域社会にて何らかの形で貢献する拠点として存在価値が認識されています。

本同窓会は開校二年後昭和五十五年九月二十二日、一年課程福祉学科修了者の十一名、二年進学者の六十九名、第二期生の新入生八十名計百六十名を会員として、草津市の社会福祉センターを会場に創立総会を開催し、大学の進展と相呼応して結成された。

爾来同窓会憲章を制定して本会の活動の指針を掲げて会員の団結と融和を呼び掛けた。又本部体制を強化する中で、各地域の特色を生かして活動の拠点に、県下八支部を決定して、各支部長を中核として組織の活性化を支援する

ことになった。

本部機構も総務部、広報部、研修部の各々が組織化され、それぞれの担当部門について事業活動を展開することに、特に会報の編集には会員相互の情報交換の場として活用され、号を重ねる毎に内容も充実され高い評価をあげている。

研修旅行も各年度毎に趣向を凝らした企画により研修課題に合わせた行程の編成にて、参加者の歓心を得られるように苦心されており、全員の満足感には今少し研究を要する。なお、大学の年間二、三回の公開講座も在校生との交流の場として参加に意義があり、毎回の特別講演の著名講師によるバラエティーに富んだ内容によって関心が高まっている。最近講演の前座に卒業生代表の活動事例発表が行われ、大学の使命である長寿社会で奉仕活動に努力している生き様を発表する機会が与えられ時宜を得た企画と歓迎している。

老人大学校の創立十周年記念式典が昭和六十三年三月十一日米原校舎で挙行され、校運の隆昌が祝福されて、同窓会から記念品（天台座主山田恵諦師揮毫の白扇）と米原校庭の噴水前に記念植樹（くろがねもち）を石碑と共に会員と在校生の募金によってなされた。

二年後の同窓会結成十周年の祝賀式が、平成三年十月十五日に大津のアヤハホテルにて各支部の代表による会員

三百数十名が参集してお祝いをを行い、母校に青銅大花瓶と華台を寄贈して永久に校運の弥栄を祈念された。

本同窓会は結成以来第二期生の中川長三氏（湖北支部びわ町出身）が初代会長に就任され、爾來十一年の長きに涉つてその重責を全うされ、今日の揺るぎなき老人大学校同窓会の強固な基盤を作られました。その間大津校舎の移転、米原校舎の開校、十周年記念式典の祝賀、長寿福祉センター総合施設の開設に伴うレイカディア大学の校名変更と共に新校舎に移管等々難事業を大学当局と良く協調しながら対処された事に敬服申し上げます。

中川氏は老人大学の校名の改称と共に愛着を感じながらの辞任となりました。

同氏の後任として平成六年四月の総会において、第八期生の安倍勉氏（近江八幡市）が二代目の会長に就任されました。安倍氏はかつて滋賀県庁の要職を歴任され、その後関係団体の役員として経歴豊富な逸材として最適任の會長を迎え、今後の同窓会の運営に大きな期待をされての就任となりました。課題として同窓会発足十五周年にあたり、記念誌の発刊と大学の企画として我々卒業生の生活実態調査に協力するなど積極的な事業運営の展開となり、県職の人脈を生かされて大学との協調と役員会の掌握に努力されました。

滿一年間の事業運営を計画どおりに推移し成果をあげ

ての第二年度の総会を前にして、体調の変化で急遽入院され容体の急変により、薬石の効果も空しく、遂に五月三十日不帰の客となられ痛恨の極みとなりました。機構改革による新生レイカディア大学と本同窓会との協調に腐心され、その活躍を期待されていただけに哀惜を禁じ得ません。平成九年度の総会を大津市アヤハホテルで開催され、後に副会長の野中正氏（三期生彦根市）を昇格の上残任期間の就任を承認され、事業運営を開始することになりました。従来同窓会の事務処理については大学事務局に長年に涉つて全面的に依頼していた経緯があり、校務運営の多様化の為に、同窓会自体で処理するように申し出があり取敢えず役員会で庶務、会計を引き継ぐ事にして、各役員の協力が無難に事務処理が出来ました。

平成十年度の総会で佐々木尚一氏（十一期生、近江八幡市）が会長に信任され、本部組織の活性化のため事務局（庶務、会計）を新設し、常任理事会（役員会）の構成と各部と各支部毎の自主活動を強化する事を基本方針として現在運営が順調に推移しております。

以上本大学の二十年の経過を回顧してその概要を報告すると共に、先人達の幾多の試練を乗り越えられた偉業に敬意を表し、輝かしい栄光の歴史を、これからも同窓会を通じて更なる発展に総力を挙げて努力する事を願うものであります。

# 「決意も新たに」80人

## 県老人大学校の入学式

高齢者が仲間とともに新しい教育を身につけ充実した生活を。県老人大学校の第一回入学式が二十九日、近江八幡市の農協会館ホールであり、八十人が入学

した。今後二年間勉強する。この日入学したのは県下から申し込みのあった二百十二人のうちから抽選で選ばれた人たちで、うち女性が一十八人。平均年齢六十

七歳で、最高齢者は八十六歳の大上郡甲良町の大橋橋平さん。

入学式には、学長の武村知事は出席できなかったが、井狩近江八幡市長らが歓迎の祝辞。大学を運営する県老人クラブ連合会の井上英真会長が「一人から大学生になつて、大いに活つて」勉強しよう」と呼びかけ、これに答へて学生代表の西村義夫さんが「第一期生としての責任を感じ、決意も新たに勉強したい」とあいさつした。



決意も新たに入学した県老人大学校の1期生たち  
(近江八幡市の農協会館で)

この大学の講座は一般教養と専門の二講座があり、専門は福祉、生活科学、園芸、陶芸の四学科で各三十人。授業は毎月第一、三火曜日、年間授業数は一般教養、専門とも各三十二時間。授業は中央公民館で行つたが、市民文化会館が完成すると来年五月からここへ移る。

# 80人 生きがい求めて

## 初の県老人大学が入学式



初の県老人大学入学式

生きがいのある老後の生活を。滋賀県の老人大学が初めて開校されることになり、二十九日午前十時から近江八幡市の近江八幡農協で入学式が行われた。県レベルでの老人大学校は全国で四番目。

県老人大学は近江八幡市中央公民館を会場に、県内在住の六十歳以上の学習意欲のある老人八十人を対象に毎月第一、第三火曜日の午前十時から午後三時まで、延べ六十四時間にわたつて開かれるも

ので、二百十二人が受講を申し込み、抽選となつた。

第一回入学の老人は湖東十八人、愛知・大上郡、湖北各十三人、大津十二人など。うち五十二人が男子、最高年齢は甲良町の大橋橋平さん八十六で、平均年齢は六十七・三歳。学習内容は必修の一般教養講座(三十二時間)のほか、選択講座として園芸、陶芸、生活、福祉の四科(各三十二時間)がある。

この日の入学式には青広登などで卒業した入学生たち全員が出席。学長(武村県知事)代理の徳岡金吾郎・県厚生部長が開校の式辞をのべたあと、井上英真・県老連会長、学生代表の西村義夫さん(甲良町)が「しっかり学びたい」と決意をのべ、全員で記念撮影。

このあと学生たちは学生証を手渡され、カリキュラムなどのオリエンテーションを受け、午後一時から中央大学教養、日本老年社会学会長の郭須宗一氏の記念講演「高齢化社会の生きがいづくり」を聞いた。

県老人大学校入学式  
昭和53年9月30日発行  
(新聞記事の一部掲載)

# 在校当時の思い出・エピソード

## 八幡校

### 老大二十年前の思い出

第一期生 園芸学科

大津支部 下司 清

昭和五十三年七月十四日、滋賀県老人大学校開設、同年八月二十九日、第一期生が公募された、大津市では、所管課で入校希望者多数の為、抽せんすることとなり、科別（園芸、陶芸、福祉、各二名、生活六名）十二名の入校者が決定した。

昭和五十三年九月二十九日、第一期生の入学式が、近江八幡市農業会館で挙行された。「高齢化社会の生きがい」と題して、

講師、中央大学 那須宗一教授の講演があった。その内容は

#### 一、高齢化社会とはどんな社会か

イ、人口の高齢化は出生率の減少によるのか、それと

も長命者が益々増加するのか

ロ、収入と生活水準はどう変わって来るか

ハ、独り暮らしが増えるか、等々

#### 二、生きがいとは何か

イ、健康と疾病

病気は精神的なもの、人間の知能は生理的記憶が薄らぐ、等

ロ、自己表現の機会

学習の機会、趣味や、社会活動等、自己表現をする

場所を考えると、生きがいを感じる等、以下略

学科は、一般教養と普通学科（園芸、陶芸、生活、福祉）一年後文芸に変更）であった。

園芸学科は、栗東町所在、県森林センターで受講することとなった。

センター職員の方々には大へんお世話になりました。

昭和五十三年十月十七日、初回一般教養が近江八幡市小幡町在、滋賀銀行近江八幡支店で、兵庫県いなみの学園長、福智 盛氏の、「高齢者と生涯教育」と題して、受講した。その後多数の名士による講義を受けた。

冬の寒い時は暖房もなく、苦勞した事を、今も思い出し北支の空を思い出す。

昭和五十四年九月、二学年制が発足。

同月二十二日二年制進学者は、転居や死亡等の為六十九名であった。

同窓会は、昭和五十五年九月二十二日、草津市福祉センターで設立総会を開催し、会則案の審議と承認。

役員の選出

会長 大橋 儀平 (犬上)

副会長 田中 誠三 (志賀) 以下 略

昭和五十九年五月十六日、県下八地域に支部設立が決定。大津支部は同年十一月三十日設立。会員は七十二名であった。

## 開校当時の想い出

第一期生 陶芸学科

近江八幡支部 谷口 光子

個人の高齢化対策といえは精神面では、生きがいづくりということになります。趣味などを持って自分なりの個人的な高齢化対策を考えていたとき、老人会長の故鳥居好一先生から、滋賀県に老人大学が開設され、会場は近江八幡になるので入学しないかと勧められ、入学を申し込みまし

た。八幡学区では女性三人が入学出来て私は陶芸学科へ、他の二人は生活学科へと、その二人も今は亡き人となりました。

昭和五十三年九月二十九日JAグリーン近江の会議室で入学式があり、午后は加古川市に十年前開設された、いなみ野学園長福智盛先生より老人大学のあり方や、先生の母上が恍惚の人になられたのが、老人大学開設の動機になったお話に感銘したことを覚えています。

第一回陶芸教室は十月十七日八幡公民館中ホールで県立窯業試験場西尾千秋先生の陶芸に関する講義があつて、そのあと学級の世話係に、元県会議員の故田中誠三様(志賀町)になって頂いたことが記憶の中にあります。

十一月七日は午前中教養講座が、滋賀銀行八幡支店会議室であり、早川一光先生の老人の健康についてと題してお話があり、午後陶芸教室が公民館中ホールでありました。いよいよ実習です。ロクロを使って抹茶茶碗を作りましたが時間が来ても出来上がらず家に持って帰ったことを覚えています。先生は手を加えて下さらず。重たい茶碗が出来上り、あとで友達に「これは空き腹では持てんなァー」といわれ大笑いしました。

公民館では設備もなく不自由ですので五十四年からは、信楽町の業者の店で習う事になり、成形だけして、あとはおまかせしておく次に出来上がっていて、型は悪くて

も色はきれいに焼き上がっていました。

七月二十三日窯業試験場で陶芸学科の反省会と見学があった、その後初めて碧水荘老人いこいの家へ行きました。

九月二十二日が卒業式で一年間が終了しました。

二年生になって大西忠左先生が教えて下さった。授業は楽しく、最初はひねり茶碗を教えて頂き、碗の目方、高さ等今でも覚えていた程印象に残っています。陶友の誰かが「もうこれしかない、これしかない」と言われた言葉が思い出されます。素焼、本焼も、生徒が当番を決めて焼きました。窯は重油を使っていたので煙の色を見たりして、つきっきりで焼き、よい勉強になりました。

二年生も卒業間近となり、みんなもう一年大学に残りたから落第させて下さいと、当時の学校長武村正義知事に話合に行かれましたが願いは適えられませんでした。

陶芸一期生は男十四名女六名の二十名で卒業後も陶一会と名付けて旅行や同期会を毎年当番を決めて、しておりましたが、二十年の歳月が流れ今は男二名女四名の六名になってしまいくちの方が亡くなりました。

一期生の思い出を寄稿しよう会長佐々木様よりお話があり、固辞しましたがとうとう書くことになりました。秋の夜長思ひ出の糸を手繰りよせ、ひもといてみました。がどれも古い昔の話で間違っている点があったらお許し下さい。

## 記念の年に

第二期生 生活学科

近江八幡支部 宇野よしる

\* 四十年の教職おえし吾は今老人大学生徒となりぬ

「本大学の学生であることを証明す」

この学生証を、しっかり胸に抱いた。

少にして学べば壮にして有為  
壮にして学べば老いにして衰えず  
老にして学べば死すとも朽ちず

ここに記された  
佐藤一斉のことは  
を、あらためてか  
みしめた。

老人大学校とは――

その拠点とは、近江八幡市中央公民館であった。

生涯学習を志し遠く県下各地から意欲に燃えた学生達が集ってきた。「滋賀県老人大学校」の門標が立つ。

堂々と学校が成立した。共同学習や実技実習面は時に応じ最適地に移動する。ここにも大学の門標が立ち、私達の学び舎となる。環境変化も又新鮮にして意義深く楽し。

校舎はなくとも実在は確たる学び舎、最良の教室であった。皆それぞれ誇りと自覚をもって真摯な態度で学んだ。

\* ひと言も聞きもらさじとノートする老学生の一ひと  
み輝く

\* 老ゆれども学びたきこと数多あり夢をもちつつ日々

## 樂しめり

各科の学生達は八幡駅から送迎バスで通学。

朝はどっと一斉登校―恰も旧来の友であったかの様に。

下校時も一斉に―今日の出来事得意げに語りつつ。

地元、私は楽しげな通学風景を羨ましく見つめたもの。

然し私達は少しでも心地よい雰囲気にと教室を整えたり、準備や後始末をしお茶の接待にも意をくばった。

老学生は今こそはと積極的に自分達の分野においても、

自主活動や共同学習にもとり組んだ。

時恰も本県で全国スポーツ大会が開催された。私達の修

得した技能を活かして何か―プレゼントを。

小さくとも情熱を込めて仕上げた、テークブルクロスを各

参加者に送る事が出来たのは嬉しかった。

又研修の旅も心に残る楽しい思い出。

今眼前に情景が彷彿と浮かぶ、その時に詠める―

\* 一望に正倉院展の秘宝追えば天平文化のときめき

にあう

\* 新しき金色の鴟尾はそそり立ち古都の大伽藍ひか

りあまねし

\* 在りし日の権力を誇る道鏡の署名文書の筆致躍た

り

「こまど」―これは私達研究文集の名称である。

たとえ小さな窓でも開けば、果てしない空が、雲が美し

い景観が一斉に入り込む。心は自ら洗われていく。

私達も「心の窓」を開こうと。

\* 視野に入る空間のすべてをわがものに胸も青めと

蒼空にひたる

在学中は全員が進んで意見や感想をかきあったものだ。

この二年間の学習を決して無為にしてはならない。

又ここで得た大切なかけがえのない友といつまでも励

ましあっていく「こまど」クラス会をもつ事にした。

太陽は中天高くある時よりも沈む時こそ茜に染めて、ひ

と際美しさを増す。

\* 落日に染まりて樹々は火の如し老のゆくてもはげ

しくもゆる。

友と「明日を約束」して卒業したのは、既に二十年にな

らんか。その間、史跡探訪、見学はもとより観賞会作品つ

くり、花の宴等々枚挙にいとまがない。みな、なつかしい

思い出。今は残る数人との大切な会合となった。

新しいレイカディアの構想に目を見張りつつ、おくれじ

とディスプレインをしている。

この二年間は、後のすばらしい人生への基本となった。

レイカディア大学同窓会の目ざす老人像に向かって力の

限り精進していこう。

―老ゆれども心枯れずに―。



# 大津校

## 老大生の頃

第四期生 陶芸学科

大津支部 大林 重信

私が滋賀県老人大学校に入学したのは、六十八歳の時でした。以来、早や十七年の歳月が過ぎようとしています。

当時は、滋賀県庁前の厚生会館に事務局がありました。必修科目は厚生会館の空き室で受講し、陶芸学科の授業は水口の碧水荘で受けました。

厚生会館は自宅から徒歩五分の近くにあり、通学は大変便利でした。しかし、碧水荘への通学は、大津からJRに乗り草津経由で貴生川で下車し、そこからは歩きました。天候の悪い日の通学は大変苦勞しましたが、今思い出しますと懐かしく臉に浮かんできます。

その頃は私もまだ元気でしたが、何事もするにも健康が第一と、一日一万歩を目標に歩きました。歩けば色々なことを知ることができました。

老大に学びながら、まず地元の逢坂学区を歩いた頃に、安養寺へ行った時に知った蟬丸のことが忘れられません。

蟬丸は、藤原定家選の『小倉百人一首』にも歌が残され

ている平安前期の盲目歌人で、逢坂山付近の庵で隱遁生活を送っていたが、琵琶の道にも秀で、毎夜、琵琶の優雅な音をかきならしていた。琵琶に関心の深かった藤原白雅三位は、蟬丸の琵琶を楽しみに聞いていたが、或る日のこと蟬丸の後ろに黒装束の僧が立っていることに気がついた。その僧は毎夜現われ、蟬丸の後ろに立ったまま琵琶の音を聞いているようであった。不思議に思った白雅三位が僧の後ろをつけていくと、安養寺のお堂の中に消えていったという。『立聞観音』の名はこの故事から生まれ有名になった。

信長の比叡山焼き打ちの時、観音堂も焼失したが、後に比叡山の復興が叫ばれ、京都伏見に居を構えていた伊達政宗が復興奉行に命ぜられた。政宗は安養寺の『立聞観音』が仮堂に安置されているのを悲しみ、お堂を建て額を掲げた。『立聞 安養寺 凶南（政宗の号）』と書かれた額は今も同寺に残っている。風雪に曝され字句もはつきりと読みとれないが、独眼竜政宗の崇敬ぶりが偲ばれる。

行基作の重文仏像と、蓮如上人自作の木像も大切に残されている。蓮如上人が布教のため旅立つ時にこの木像を彫り、自分の代わりに同寺に残されたと伝えられている。

重文の阿弥陀如来座像のように大きなものではないが、真宗に転派した後の同寺にとっては、きわめて大切なものとなっている。

安養寺は国道一号線の騒々しい中にひっそりと建っているが、同寺と蓮如上人とのつながりを知る市民は少ないと思う。本年は奇しくも如連上人の五百回忌であり、感慨一人です。

まだ元気だった老大時代を懐古し、拙文をしたためました。

## 在学中の思い出

第五期生 園芸学科

守山・野洲支部 井上 一男

現在は滋賀県レイカディア大学校と称して、総ての施設の完備したキャンパスであります。吾々の在学した頃は、アレモ無い、コレモ無い、ないないだけが目立った貧弱な滋賀県老人大学校であった。

入学式は滋賀県合同ビル（県庁前）五階大集会室に於いて実施されました。昭和五十八年十月二十七日。

学習は知事公舎前の県厚生会館に於いて、一般教養（全学生）専門科目 園芸学科、文芸学科、生活学科の自主活動のみ、県立大津保健所に於いて生活学科、陶芸学科は水口碧水荘に於いて実施された。

県厚生会館に通学する学生は県庁構内を通った。県警本部前辺りで、出勤途上の学校長武村知事から朝のあいさつ

として「お早う」とよく声をかけて貰った。

在学中の思い出

一、天台宗総本山延暦寺座主 山田恵諦師の法話及び写経  
二、老人ホーム きぬがさ荘での交流会 園芸・生活学科  
合同

老人ホーム 安土荘での交流会 文芸・陶芸学科  
同不参加

三、高齢者リズム体操 滋賀大教育学部教授 草川一枝先生

四、校内体育祭 ゲートボール大会 皇子山競技場

## 老大時代の思い出

第五期生 園芸学科

湖東支部 西澤 正三

何故滋賀県老人大学校に入学したのか。アメリカの哲学者 John Dewey 氏は、Education is not Preparation for the life itself と言われた。即ち教育と云うものは、生活の準備でなく、教育それ自身であると、その言葉に共感を感じ自己向上のため大学に入学したのである。

その時の大学の学長は滋賀県知事武村正義殿で、同窓会長は中川長三様でした。滋賀県老人大学は滋賀県老人クラ

ブ連合会が県の委託を受けて運営されていたのである。最近になってレイカディア振興財団が運営されるようになったのである。したがって大学の名称も滋賀県レイカディア大学と変更されたのである。レイク琵琶アルカディア、その目的は滋賀の理想郷実現のための大学である。さて大学の要素と言えば教授と学生と校舎である。その当時校舎と云うか学校は古く滋賀県庁前の厚生会館の二階であった。その当時校舎の新築が強く叫ばれていた。それはそれなりに意義があると思う。然し堂々たる校舎はなくても仮住居であっても教育は成り立つものである。教育は教育者と被教育者の心のふれ合い、つながりが大切である。

さて、私は五期生として園芸学科に学びました。講師の先生は五箇荘の辻与左衛門先生で、その当時八十才とか申して居られましたので、現在の消息はわかりませんが健在であれかしと祈念する次第です。殊に印象の深かったのは正月用の盆栽の指導をうけたことです。盆栽（松竹梅）の鉢植えを四個か五個自動車で運んでこられたのです。勿論受講生も二階へもってあがるのを手伝いましたが、今にして思えばその労苦と準備に対して心から感謝申し上げます。尚盆栽については、排水、給水、土壌、肥培管理、剪定についても実にくわしく教えていただきました。自然とのふれ合い。呼吸とか。ひたる盆栽とか、自分が客体にとけこむとか素晴らしい言葉が今も私の頭の中に残って

います。二カ年間学習を終え無事卒業となりました。その時、五期生園芸科のメンバーが集まり、五期生園芸科と云うことで五園会を組織致しました。会長には大津市の磯田善通氏を選任致しました。そこで毎年一回必ず総会を開くこと。ゲートボールを実施して会員相互の親睦をはかることを決定致しました。そして年一回十二月でしたが雄琴の山下石松様の料理屋で開くのが通例でした。そこでいただく鮎寿しの味、私の好物で美味絶品でしたが山下石松様が他界され以後途絶えています。

尚、五園会のメンバーで年一回ゲートボール大会を実施しました。考えて見るとゲートボールの愛好者と云うか、指導者と云うか、ゲートボールに生き甲斐を感じて居られる方が沢山おられました。今は他界され淋しい限りです。五園会の総会も途絶えて居りますので生存者だけで総会を開きたいと考えております。



# 入学の動機と 在校時の思い出

第十二期生 文芸学科

湖南支部 伊藤 重一

サラリーマン人生が、終らんとする昭和六十二年四月頃のある日。

いつも通いなれたバスでの通勤途上、県厚生会館の一隅に立っている老人大学校の看板が目に入った。

会社の退任も間近となり常々第二の人生の過ごし方を考えていた矢先のこと、会館の老人クラブ連合会事務所を訪ね、老大の概要と入学等の説明書といただき、その内容を熟読した。

その内容は、大学創立の目的と建学の方針が詳細に書かれており、第二の人生のあり方を模索している私に格好の示唆を与えてくれる思いがし、早速入学手続をとることにした。

さて、入学申込には学ぶ、学科を決めねばならない、無趣味な私のこと、園芸、陶芸駄目で、それでは文芸にと入学手続をとった処幸運にも合格した。入学式は米原町の文産会館、大津校のキャンパスは、厚生会館三階の大会議室で、近く新校舎が建設されるとの事で、あったが在学二カ年は間借で過した。

受講内容によって会場が点々と変り、行く先々で肩身が狭いことが多く、時には同居の人達とのトラブルが発生、原因は老人が故に整理清掃が悪いとの指摘、口論も数々であった。

私にとっては選択科目の書道短歌が大変だった。もともと深く考えず漠然と文芸学科を選んだこと、書道は生来の悪筆、短歌に至っては新聞紙上で目にする程度でかつて一首も詠んだ事はない。

でも、講師は立派な方々で、書道の三原研田先生、短歌の伊藤雪雄先生、お二方共県文化功労賞を受賞されている県下の第一人者、この教えようのない学生にさぞ手を焼かれたことと、今更乍ら汗顔の至りである。

このような劣等生の私にとって老大は、よい大学であった。出席日数が足りて無事卒業出来た。先ずは祝着と云う処。

自称劣等生でも在校二カ年は充実した楽しい学生生活の毎日であった。

二十五名の学友は何れの方も人格識見を兼ね備えた立派な人達で幅広い各層の体験を交流の中で会得させていただき老大を選んだ、目的の大半を得たと喜んでいる。

この貴重な体験を地域の高齢者社会に活かし、その先覚者となって地域の高齢者福祉活動に取り組んで行きたい。

それが、大学で学んだ者の義務だと信じている。

# 米原校

## 私の青春

第十一期生 生活学科

中部支部 中村 春美

昭和六十三年に、米原老人大学第十一期生として入学して以来、早、十二年の年月が流れました。光陰矢の如しとは本当にこのことです。

感激にあふれて入学した当初は、生活学科で共に学ぶ皆さんが、何だか私とはかけ離れた存在に思えて、私などがついていけるのかと気おくれしたのですが、皆さん暖かく気さくにつき合って下さり、今日に至っております。

授業では、五人の先生に教えて頂きました。

たくさんのプリントに、目がねをかけたりはずしたり、四苦八苦でとりくんだことも、今となっては懐かしく楽しい思い出です。私は調理師をしておりましたので、老人大学で栄養学を学んだことで、より一層、調理法の勉強をして、自分だけでなく家族、そして地域の皆さん方の健康促進にお役に立てればと思うようになりました。

また、実習の伴う授業は、本当に楽しく、特に、梅本博子先生の「ちぎり絵」の時間は、皆、二十代に帰ったかの

ようにはしゃいで、時間の過ぎるのも忘れるほどでした。卒業作品展の作品作りでは、時間が足りなくなり、事務局に時間をとってもらえるようお願いに行ったりもしましたが、やはり決められた時間しか認められず、大さわぎでしたが、それだけに、皆で協力し合い、無事出来上がった時の喜びは、言葉で表しようがありませんでした。皆喜び泣きに泣いたものです。あの感激は、今でも思い浮かべるだけで熱いものがこみあげてきます。

たとえ、八十、九十になっても、吾が人生に終りなし、生きる気力を持ち続けることこそ青春である、とサミュエルの詩から学びました。まさに「青春」の時を過ごさせて頂いた老人大学。卒業しても尚、私の心の中に、その精神は生き続けております。これからも、時代の流れに、後れることなく、出会い、語らい、学び合いを大切にたくましく生き抜いていきたいと思っております。

さて、私たち生活学科の記念文集「こだま」は、十三号目をむかえようとしています。欲張って「ひかり」に乗らず、各駅停車で行こう、そして、二十人の級友が、山のこだまのごとくいつまでも響き合って行こうと、名づけたのです。家事の雑事の合い間に、ふと思ひ出し、時おりとり出してながめては、懐かしい思い出にひたり、これからも、命ある限り続けて行こうと思うのです。

# 諺に学ぶ

第十一期生 園芸学科  
湖東支部 西堀 嘉一

私は当時老人大学と言われた現在の米原校へ県通算第十一期生として入学致しました。米原校としては開校初の第一期生でもあり、私なりに記念すべき入学であると嬉しくも又緊張の年でもありました。

此の度、当時大学も開校二十周年を迎え、之を記念して意義ある、忘れ難き平成十年で在り度いと思ひ拙文ではあります。私に程無く八十才を頂く今日ですがお陰様で病知らずの日々を送っております。何か今は亡き親の教えのお陰の様に思います。私、在学中の二年目の夏の事です。卒業の記念として、今は故き当時の比叡山天台宗延暦寺天台座主山田恵諦大僧上のご講演を拝聴する機会を頂きました。今も其の時の姿が忘れられません。ご高齢の僧上は歩行が困難でお弟子二人の介添えで壇壇にお上がりされた事です。ご存知の方も多し事と思ひますが、ご講演の中にあつて幾つかの昔の教え「諺」を引用して解り易く私達にお教え賜りました事は、今も私の日記からは消える事はありません。ご講演の中に世の総ての出来事は、之、又総て因果の原理謂うなれば因果応報の答えであり、答えの前に其の原因の在る事を忘れてはならないし、

疎かにしてはならないと……。私達を老人が今この言葉に関心を持たざるを得ない一つに高齢化や少子化社会の問題で耳にして久しいものですが、大僧上の話、因果応報に思いを走せると高齢化社会の今日も其の昔、生めよ増やせよの国策に在った事も間違ひなく少子化についても文明文化生活の高度化を謳歌する余り労は嫌・汗は嫌と高度化に酔つては居ないだろうか楽をする事は結構ではあるが、私の日記には、人生に何事も「けじめ」「程ほど」を忘れてはいけないと在ります。山田大僧上のお話を頂くならば、人生に満点は無い、古きを偲び新しきに学ぶとも教えて居ます。今、レイカディア大学二年を回顧して特に必須講座には身に沁みる事の数々を覚える此の頃です。

八十路の近い私は最近医者には病気を治す人、私は私の健康をつくる人と、己が健康に一入留意しております。又、老人大学での学び「諺」を己が生き甲斐にと思ひ、「諺に生きよう、諺を伝えよう」をテーマとして、折りに依り話題にしています。皆様余生と言われる私達ですが、好きで病む人はありませんが、因果の原理を今一度噛みしめ「健康な宝、宝は健康」の教えに思いを致し度いものです。

最後に諺を一つ二つ、書かして頂きます。

一、青柿が熟し柿を笑う

(己が五十才にして、百才の経験者を笑う)

二、減らぬものなら金一両、死なぬものなら子は一人

(社会には予測出来ない事が起こる)

### 三、他人の眼は無限である

(他人は知らない見て居ないとは愚かな心である)

## 在校当時の思い出

第十一期生 文芸学科

湖北支部 田中 茂

何んと、早いものである。平成元年十月十八日、滋賀県老人大学、米原校開設、第十一期生の入学式が挙行され、当時を思い出しますと、早くも十年を経過しています。光陰矢の如しとは、良く言ったものです。私達第十一期生、文芸学科に入学を許され、年齢も最高七十九才、年少は六十一才でしたが、今では八十九才を最高に七十一才ともなりました。入学当時二十五名でしたが、その後わずか一カ月で、内藤さんが、京都黄檗山の宗務総長に就任退学され、又、後藤さんが一カ月で死去され、その後は、二十三名が、老いにして学べは、死すとも悔いずの精神で、共に楽しく、藤本映湖先生、塚本鈴子先生、辻井先生、の方々に、二カ年間、湖北の美しい自然、四季の豊富な処で、句会の学習、風雅な俳画、近辺の名刹、名所への吟行など、今でも當時を忍ぶと、楽しみが自然と思いかびます。又、初めて、卒業生一同、春の観櫻会の実施も、楽しみの一つです。又、

第十一期文芸学科は、毎年一回、場所をかえ、懇親の催しを実行しています。いつまでもおたがいに健康に留意し余生に對し感謝しつつ、趣味に生き抜き楽しく暮らしたいと思えます。

私のすきな健康と体力づくり標語

(事業財団のなかより)

山歩き こだましてくる健康が

「おれは達者」 危ない そのムリその過信

貫禄は 腹を出すより汗を出せ

苦勞して 治療するより まず予防

早寝早起き むかしも今も

もう年と 思う気持ちかふけさせる



# 草津校

## 振り返って

### 同窓会への期待

第十七期生 文芸学科

湖南支部 児玉 薫

老大を終えてから、早や三年が過ぎました。当時を振り返ってみますと、クラスの人みんな前向きな姿勢の方、なお特技、習字、俳句等、堪能な、何かを習得されているとお見受けしました。私は今までの過ごし方は間違っていたのでは？何か特技を習得すべきであったかと一瞬思いました。

時代の移り変わりの激しいとき、新しい女性の生き方とグループ活動に、一四〇〇万人の水瓶と云われる琵琶湖の汚染に心を痛め、環境問題に取組み、自分の健康は自分で食がそのすべてではないにしろ、要因の一つでもあると知るとき、食生活に関心を、等と過ごしてきました。

卒業後、レイカディア大から、新高齢市民、学び花咲く地域貢献講座、開講のお知らせを頂き、早速受講の手続きをしました。

五つの部門がありました。入学のとき、第二希望に、生

活学科としておりましたこともあり、これ幸いと「湖国伝統料理」部を半年間受講、学ばして頂きました。

「今なぜ伝統食か？」外国の人達までも日本食に注目、この話に大いに共鳴するところがありました。

レイカディア大学、貢献講座を通じて、私の今までの進んできた道程にみな関連のある学習であったと確信を得ることが出来ました。

地域の人達に話をするのに、自信がもてるようになったと思えるようになりました。

レイカディア大学との出会いは、私をプラス志向に導いて頂いたと感謝しております。

之からの希望として、同窓会へ入会させて頂きました。折ある毎に集い、交わり、情報交換の機会を望み、先輩も後輩もお互いに、切磋琢磨し、同窓会員であることに誇りを持ち、残された命の為に精一杯頑張って生きられたらとの願いです。

地域への貢献も思考に入れながら、何かをしなければ、と……。





# 水口碧水荘で学ぶ

第十七期生 文芸学科

甲賀支部 城 宏衛

現在「県立老人福祉センター碧水荘」で多くの友人と共に学んでいます。

昨今より我が国の政治経済改善のため、行財政の改革方針が打ち出され、高齢者福祉教育施設の縮小や廃止の方向へ県の方針も向かっていて、水口の碧水荘もその対象にあがろうとしています。しかし、現在の福祉社会に於て、それはとんでもないことだと私は思います。今後益々充実発展の方向へ進めるべきであると思います。

私は昭和二十一年、「県立信楽窯業試験場を振出しに、窯業技術を学び、近江化学陶器株式会社へ入社して、やきもの一筋に約五十年間学び働いてきました。主に建築用タイル製造に従事し、戦後の住宅復興や産業の興隆、社会発展のために励んでまいりました。

時の流れは早く、会社を定年退職して、既に四年余りを経過致しました。退職時には、まだまだ働ける、そうして社会の有用人間でいつまでもありたい、と願いながら、月日は過ぎました。そんな或日、一先輩のアドバイスを受けレイカディア大学に入学し、第十七期生として二年間学ぶことになりました。

長い間の会社生活で、一方向しか見ていなかったのでしょうが、先輩諸姉の御存知の如く、必修課目では、政治・経済・社会・福祉・スポーツ・保健衛生・ボランティア活動その他多岐に亘って充実した学習を受けましたので、大きく開眼されました。お陰様で、第二の人生をたくましく生きる知恵と行動力を体得させて戴きました。又、多くの新しい友人と交流を深めることが出来、各地域の情報交換も密になり、全身に活力の漲る感が致しました。又、選択課目では、俳句や書道を学び、文学に多少の興味を抱くようになり人生の深遠に触れ、視野も広げることが出来ました。

このすばらしいレイカディア大学の同窓会も、早や二十周年を迎えましたことは、大へん喜ばしくお目出たいことであり、心からお祝い申し上げます。そうして、卒業生も一千八百人を超えることとなり、高齢ではありませんが、県下各地域に於いてそれぞれの立場で社会参加をしておられることを聞き、頼母しい限りであります。

卒業後私は、今迄の学習の心を止めてはいけません。「続けることは力なり」の言葉のある如くその研鑽の場所を求めておりましたところ、幸いにして、甲賀郡水口町に県立の「老人福祉センター碧水荘」のあることを知り、私の願いを満して下さる絶好の学び舎であると信じました。

講座のコースは五コースあり、私は俳句・書道・園芸・

表装の四コースで学んでいます。その他受講生の最も多い陶芸講座もあります。各コース共、受講生は生き生きとした気力で学び、趣味を凝らして頑張っています。各講座共、講師先生方の御指導と、個性豊かな人間性に接し、また、友人達と親しく交流を深め、視界は益々広がっていくことを感じております。

此処で私は地域のため、また社会のために何かお返しをしなくてはならないと思いました。幸せなことに、地元信楽町に「県立陶芸の森」がありますので少しでもお手伝いをしようと思い、ボランティアに応募して、陶芸館のやきもの展示解説ボランティアに採用されました。目下勉強しつつ頑張っています。一人でも多くの人が信楽へ足を運んで戴き、やきものの風情に触れて楽しく味ってもらおうと努力しています。

また大津市にある「県立琵琶湖文化館」の展示解説ボランティアにも応募採用されました。少しでも近江の歴史、文化や芸術に触れて戴き、楽しみながら学んで戴けたらと思います、お手伝いをしています。

私は常にたゆまなく学習し、自分に合った趣味を生かして、広く社会の人々と交流を深めることは、高齢者が自覚している残り僅かの人生を有意義に生きるための活力を生み出す原動力になると信じています。

この様に自発心を以て学び、地方の活性化のために少し

でも役立つ高齢者の力を培ってくれるのは、水口碧水荘であると確信致します。所長や職員の方々には、大へんお世話になっておりますが、今後一人でも多く受講され、生き甲斐を学びとり、ボランティア活動に意欲を燃やす高齢者の研鑽の館として、益々発展して行くことを切望する次第であります。

## 私の選んだ生涯学習

第十六期生 文芸学科

高島支部 川元 繁雄

四十八年に亘る職場から開放されたのが平成五年四月、「さあ、これからが私の自由時間だ。色々なことにチャレンジして人生を楽しみたい」と、早速レイカディア大学に入れてもらった。レイ大での学習は、初めて作ることになった和歌と四、五十年ご無沙汰していた書道でしたが、何とか卒業することが出来ました。

実のところ、私は今迄色々なことに興味をもち手掛けてきました。いずれも中途半端なものばかりですが、その数、十指にもなるでしょう。ここで趣味の数を減らして集中的に勉強しなければ何も残らないと思ひ、重点を「詩吟」と「漢詩の作詞」にしぼり、今日まで続けてきました。なお、レイ大で習った和歌と書道は細々ながら仲間と共に続

けています。

詩吟暦十五年、漢詩作詞暦十年になろうとしています。この二つの内の漢詩については、詩吟を習い初めて四、五年もたち、少し吟力が向上してきたかなと思つた頃「人の作つた詩を吟ずるのもよいが、自分で作つて、それを吟じたらもっと楽しいだろうなあ」と思つたのが漢詩作詞の動機でした。早速、漢詩の先生について勉強を始めました。この時すでに六十才を幾つか過ぎていましたが、「思い立つたが吉日」とか「生涯学習」とか言われていますように、私には年齢は関係なかったようです。

漢詩の作詞は難かしく、思うように作れませんが、苦勞して作つた詩を読み返し、それに自分なりに譜付けして吟じ、一人悦に入っています。

漢詩や詩吟を習っているお陰で、漢詩の故郷中国へ旅行することが出来ました。今、その時々<sup>ちよこころ</sup>のことを懐かしく思い出しています。特に今年八月、長江<sup>ちやうきやう</sup>の辺り<sup>ほとり</sup>奉節県にある白帝城<sup>はくていじやう</sup>で催された日中漢詩人による「98白帝城吟詩会」で詩吟を吟ずる機会にめぐまれたことは、一生の記念と大変喜んでいきます。

最近作りました漢詩一首

生涯学習

生涯学習自相鞭

雖努繙書志未全

齡過古稀情尚盛  
詩歌筆硯傲先賢

生涯<sup>しやうがい</sup>学習<sup>がくしゅう</sup> 自ら<sup>みづか</sup>相鞭<sup>あひむち</sup>うち

努<sup>つと</sup>めて書<sup>しょ</sup>を繙<sup>ひもと</sup>くと雖<sup>いえど</sup>も 志<sup>こころざし</sup> 未<sup>いま</sup>だ全<sup>まった</sup>からず

齡<sup>よわい</sup> 古<sup>こ</sup>希<sup>き</sup>を過<sup>す</sup>ぐるも 情<sup>こころ</sup>尚<sup>なお</sup> 盛<sup>さかん</sup>なり

詩<sup>しい</sup>歌<sup>か</sup>筆<sup>ひつ</sup>硯<sup>げん</sup>先<sup>せん</sup>賢<sup>けん</sup>に傲<sup>なら</sup>う



# 平成10年度定期総会報告

事務局長 奥村 常治郎

平成10年度の定期総会は湖南支部担当で、6月11日（木）、クサツエストピアホテルに200余名の会員の参加を得て盛会裡に開催されました。

また、当日は、議会中の古川研二草津市長をはじめ鎌田昭二郎レイカディア大学副校長ならびにレイカディア財団からも多数の方がご出席下され、親しくご祝辞をいただきました。

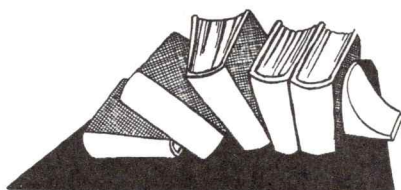
予定された案件も順調に進み、総会のエンディングは、ご尽力いただいた前会長の野中正氏のあとを引き継ぎ、近江八幡の支部長で総務担当の佐々木尚一氏が、「学舎を同じうした者が、卒業後も生涯学習のための相互研鑽と地域での活動を通じてふれあいの和・輪を広げよう」と新会長としての熱い思いの挨拶がありました。

お元気で、力強く、頼もしい新会長に、今後のご活躍を祈念しつつ、会員一同負けじと発奮させられました。

総会後は、支部別に設営されたテーブルを囲んでの懇親会。

一年ぶりの再会に、お互いの無事を喜び合う歓声が会場いっぱいになり、友好と親睦に満ちた楽しいひとときがあっという間に過ぎました。

以下総会に於ける平成10年度予算書及び功労表彰者、長寿慶祝表彰者名簿について報告します。



## 平成10年度 予 算 書

### 収入の部

単位：円

区 分	10年度	9年度	増 減	摘 要
会 費	1,700,000	1,680,000	20,000	
総 会 費	700,000	600,000	100,000	3,500円×200=700,000
雑 収 入	30,000	30,000	0	バッチ代 利息
繰 越 金	275,234	88,632	186,602	
合 計	2,705,234	2,398,632	306,602	

### 支出の部

単位：円

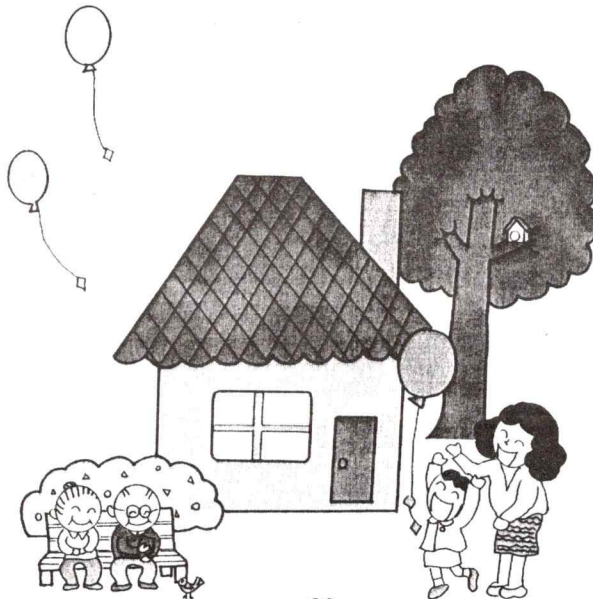
区 分	10年度	9年度	増 減	摘 要
総 会 費	900,000	700,000	200,000	会負担 150,000 会場費 他
役 員 会 費	150,000	100,000	50,000	会議費用
嘱 託 費	0	100,000	-100,000	
旅 費	300,000	150,000	150,000	役員会時の参加費
消 耗 費	10,000	30,000	-20,000	
印 刷 費	50,000	50,000	0	
通 信 費	30,000	50,000	-20,000	
雑 費	30,000	30,000	0	
総 務 部 費	30,000	50,000	-20,000	
研 修 部 費	150,000	150,000	0	成果展搬入費用 研修旅行
広 報 部 費	700,000	750,000	-50,000	会報16号 2,000部
調 査 費	30,000	50,000	-20,000	
慶 弔 費	200,000	150,000	50,000	
予 備 費	125,234	38,632	86,602	
合 計	2,705,234	2,398,632	306,602	

特別会計基金 1,119,723円+当期利息が加算

## 功勞表彰者名簿

※大津支部	高野 喜六	大津市大江3丁目	陶芸12期生
※湖南支部	伊藤 治初	草津市野村2丁目	陶芸8期生
※甲賀支部	畑中 千代	甲南町深川	生活11期生
※守山野洲支部	田中 一男	中主町比江	園芸9期生
〃	中村 勝一	守山市吉身1丁目	陶芸9期生
※近江八幡支部	吉川保三郎	近江八幡市北末町	陶芸3期生
〃	岡田 茂子	近江八幡市船木町	生活10期生
※中部支部	木俣 信一	安土町上豊浦	園芸6期生
※湖東支部	辻 幸夫	彦根市甘呂町	園芸3期生
※湖北支部	松下 保清	米原町三吉	陶芸8期生
〃	秋野 昇	虎姫町本町	園芸6期生

(敬称略、順序不同) 被表彰該当者 11名



## 長寿慶祝表彰者名簿

※湖南支部	岸本政太郎	明44. 1.27	陶芸3期生
※甲賀支部	徳山一郎	明44. 6.16	陶芸14期生
〃	石川まつ江	明44. 4.28	陶芸1期生
〃	小嶋小石	明44. 6. 3	陶芸2期生
〃	木村主税	明44. 6.20	陶芸3期生
〃	服部峰子	明44. 7.31	生活2期生
〃	芥川 徹	明44. 9. 4	園芸5期生
※守山野洲支部	竹林治平	明44. 8.29	園芸10期生
〃	高田七百寿	明44.10.23	園芸2期生
※近江八幡支部	奥野宗一郎	明44. 7.29	文芸10期生
〃	中尾元次	明44. 2. 8	園芸16期生
※中部支部	井口新作	明44. 1.18	園芸1期生
〃	宮田しづ	明44. 8.18	生活3期生
※湖東支部	田中 花	明44. 5. 2	生活3期生
〃	加藤恵美	明44. 8.29	文芸7期生
〃	田中 淑子	明44. 3.10	生活9期生
※湖北支部	村口 太右門	明44. 3.24	文芸13期生
〃	山 仲 三 夫	明44. 3. 3	文芸11期生
※高島支部	竹原健市	明44. 7.11	園芸6期生
※大津支部	若林 律	明44. 2.25	生活8期生
〃	竹村国三郎	明44.12.27	文芸13期生
〃	松山清治	明44. 5. 6	園芸6期生
〃	浜田三次	明44. 4. 9	陶芸5期生
〃	吉川 豊	明44. 1. 9	福祉1期生

(敬称略、順序不同) 慶祝被表彰該当者 24名

## 平成10年度本部役員及び各部構成員名簿

役職	氏名	電話番号	支部名	生年月日	期	学科
会長	佐々木尚一		近江八幡・支部長	大 7. 2	11	園芸
副会長	門馬 三郎		大 津・支部長	大 10. 5	11	文芸
会計	谷本 一夫		大 津	昭 4. 2	15	園芸
事務局長	奥村常治郎		湖 南・支部長	昭 8. 6	17	文芸
総務部 (6名)	部長 志連政五郎		高 島・支部長	大 15. 4	14	スポ
	武久 四郎		中 部・支部長	大 10.12	11	園芸
	辻本 昇		守山・野洲	昭 3. 9	13	陶芸
	伏西千代子		近江八幡	昭 2.11	12	生活
	小倉 清子		甲 賀	昭 2. 5	16	スポ
	沢井 民子		湖 南	昭 4. 5	12	生活
広報部 (7名)	部長 岩井 典弘		守山・野洲・支部長	昭 3. 6	17	園芸
	関 武		大 津	昭 4. 6	15	文芸
	小川 常三		近江八幡	大 10. 5	8	文芸
	松本 芳雄		湖 北	大 15. 9	11	園芸
	林 茂 男		甲 賀	大 15. 4	14	園芸
	高橋賀恵子		湖 東	昭 4. 1	16	文芸
	野玉 一子		中 部	昭 4. 8	12	生活
研修部 (6名)	部長 磯 貝 澄 雄		湖 東・支部長	大 15. 2	11	園芸
	今井 博		甲 賀・支部長	大 13. 4	11	園芸
	川島 義一		高 島	大 13.12	14	園芸
	蘭 昭三		中 部	昭 3. 3	18	園芸
	中川志げ子		湖 北	大 13. 1	13	スポ
	青山しづ子		大 津	昭 2.11	14	生活
調査部 (4名)	部長 林 憲 雄		湖 北・支部長	大 8. 5	11	文芸
	大西純一郎		湖 南	大 12. 4	17	陶芸
	枝村 和次		湖 東	大 8.11	12	園芸
	加藤 敏枝		守山・野洲	大 15.12	17	生活
婦人部 (9名)	部長 志連紀恵子		高 島	大 14. 3	14	スポ
	女子理事全員					



# 同窓会会則の改定

## Ⅱ 事務局長、常任理事会を新設Ⅱ

レイカディア大学の機構変更に関連し、同窓会としても、従来  
の大学当局への依存体制から、より主体的な運営を目指した会務  
を行うため、事務局長の新設や常任理事会を設けて、会議の効率  
化を図るなど会則の一部が改定されました。

以下に改定後の会則を全文掲載しますので一読願います。

## 滋賀県レイカディア大学同窓会会則

### 第一条 (名称)

本会は、滋賀県レイカディア大学同窓会と称する。

### 第二条 (会員)

この会は、滋賀県老人大学校およびレイカディア大学の卒業生  
をもって組織する。

### 第三条 (事務所)

この会の事務所は、滋賀県レイカディア大学本部内に置く。

### 第四条 (目的)

この会は、会員相互が切磋琢磨し併せて親睦を図り母校の発展  
に寄与することを目的とする。

### 第五条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

一、定期総会および臨時総会の開催

二、母校の活動に対する援助協力

三、調査、研究に関する事項

四、成果展および公開講座に関する事項

五、会報の発刊に関する事項

六、功労者の表彰

七、慶弔の実施

八、その他必要と認めたる事業

### 第六条 (部の設置および分掌事項)

前条の事業を行うため、次の部を設け所掌事項を定める。

部長および部員は会長が委嘱する。

#### 一、総務部

・ 定期総会および臨時総会に関する事

・ この会の予算、決算、事業計画等の策定に関する事

・ 功労者の表彰の具申、慶弔の実施

・ その他、他の部に属しない事項

#### 二、研修部

・ 研修事業の策定および実施

・ 文化祭および公開講座の実施

#### 三、広報部

・ 会報等の編集、発刊に関する事

#### 四、調査部

・ 名簿調査に関する事

・会員名簿の作成。

第七条 (支部とその区域)

この会に次の通り支部を設け、その区域は下記の通り定める。

支部名	区 域
大津支部	大津市全域・滋賀郡全域
湖南支部	草津市・栗太郡各全域
守山・野洲支部	守山市・野洲郡各全域
甲賀支部	甲賀郡全域
近江八幡支部	近江八幡市全域
中部支部	蒲生郡・八日市市・神崎郡各全域
湖東支部	彦根市・愛知郡・犬上郡各全域
湖北支部	長浜市・坂田郡・東浅井郡・伊香郡各全域
高島支部	高島郡全域

二、支部は支部規定を自主的に定める。

第八条 (役員構成、および役員選出、任務、任期)

この会は次の役員をもって構成する。

- (1) 会長 一名 (2) 副会長 一名
- (3) 理事 各支部より三名(但し大津支部は四名)
- (4) 常任理事 理事のうち各支部長とする。
- (5) 事務局長 一名 (6) 会計 一名
- (7) 幹事 若干名 (8) 監事 二名

二、役員選出は次による。

- ・会長および副会長、監事は会員より理事会において選出し総会の承認を得るものとする。

- ・常任理事および理事は各支部から選出する。

- ・事務局長および会計は会員より常任理事会において選出する。

- ・幹事は振興財団の役員ならびに大学事務局長の就任を依頼する。

三、役員選出は次による。

- ・会長はこの会を代表する。

- ・副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

- ・各理事はこの会の必要事項の運営に当たる。

- ・事務局長はこの会の庶務事項を処理する。

- ・会計はこの会の会計事務の処理に当たる。

- ・幹事は適時理事会に出席を要請して本会の運営事項の助言を受けるものとする。

- ・監事は会務、会計処理を監査する。

四、役員選出は2年とする。但し再任を妨げない。

補欠により選任された者の任期は、前任者の残存期間とする。

第九条 (総会および臨時総会)

定期総会は年一回会長が召集する。臨時総会は必要に応じ、役員会の議を得て会長が召集する。

二、定期総会および臨時総会の議長は、出席会員の中より選出する。

三、議事は、出席会員の過半数によって決する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

#### 第十条（総会に付議事項）

定期総会に付議する事項は次の通りとする。

一、会則の制定、改廃

二、前年度事業報告と決算報告

三、本年度の事業計画および予算案

四、その他役員会において必要と認められた事項

#### 第十一条（役員会）

役員会は会長が必要と認められた時、適時これを催す。

二、理事会は、総会に付議すべき事項のほか、この会の重要事項を審議する。

三、常任理事会は、その都度本会の運営に関する必要事項について審議する。

#### 第十二条（顧問および評議員）

顧問は本会役員経験者（長老）として会長が就任を依頼する。

二、評議員は大学当局より在校生各校二名の選出を受け就任を依頼する。

三、必要事項ある時はその都度役員会に出席を要請し、助言を受けることが出来る。

#### 第十三条（経費）

この会の経費は、年会費および寄付金その他の収入をもって賄う。

一、年会費は一千円とする。

但し、既に終身会費一万円を納入した者を除く。

二、寄付金およびその他の収入

#### 第十四条（会計年度と決算）

この会の会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

二、年度終了後、収支を明らかにした決算を作成し、監事の監査を受け総会に報告しなければならない。

#### 第十五条（慶弔）

次の通り慶弔を行う。

一、会員が数えて米寿および白寿を迎えた時、予算の範囲内で記念品を贈呈する。

二、会員死亡の時、弔意を表する。

#### 付則

・この会則は、平成七年四月一日から廃止する。

但し、第七条（支部設置）は、平成八年四月一日より施行する。

・昭和五十五年十月一日公布の会則は、これを廃止する。

・この会則は平成八年五月一日より適用する。

・この会則は平成十年六月十一日の改正により適用する。

# 同窓会のあゆみ

＝ 逐年増加する会員と充実した事業 ＝

年度	会員数の推移	総 会		
		期 日	場 所	主 な 事 業
昭和 55	80	9/22	草津 支社福祉センター	設立(卒業式後)会則・役員
56	147	3/25	草津 支社福祉センター	公開講座後 会務・予算
57	226	3/ 8	草津 支社福祉センター	同 上 あたか飯店で懇親会
58	306	3/24	大津のぞみ荘	会員の発表会 (校歌・バッジ制定さる)
59	370	5/16	彦根市民会館	8支部結成 会員発表
60	—	5/16	八幡休暇センター	
61	465	5/ 7	長浜 湖北 農業会館	
62	—		八日市 太郎坊	研修・総務・広報の部制度
63		6/23	石部西寺児童会館	米原校90名入学
		3/11	大津市民会館	10周年式 曾野綾子の講演 記念の扇子
平成 1		5/23	米原交流会館	同上クロガネモチ植樹 同窓会のバッジ作成
	636	6/ 8	高島 萩の浜 翔湖園	(10/12ソウル老人大学と交歓会) 大津
2	734	6/ 9	能登川やわらぎホール	レイカディア振興財団設立
3	878	6/10	草津勤労福祉センター	120名参加 2,500円 第1回成果展
		10/ 5	大津アヤハレークサイドホテル	同窓会10周年記念 300名参加
4	980	6/12	彦根老人福祉センター	第2回成果展
5	1,043	9/ 6	長寿社会福祉センター	レイカディア大学同窓会 老大15周年 成果展(在校生と合同) 中国旅行(北京)
6	1,359	7/11	長 浜 (浜湖月)	160名参加 2,000円 中国旅行 (桂林)成果展(在校生と合同)
7	1,406	6/ 1	安土やすらぎホール	170名参加 2,000円 歌舞伎見物
8	1,553	6/ 4	八幡婦人センター	218名参加 2,500円
9	1,643	6/11	大津アヤハH	204名参加 3,000円
10	1,682	6/11	草津エストピアH	198名参加 3,500円

# 支部活動だより

## 大津支部の 活動状況について

副支部長 谷本 一夫

### 一、役員の変更について

新年度を迎えると、各支部でも役員の変更は大きな仕事である。当大津支部は約三〇〇名に近い同窓会員を擁するマンモス支部である。その支部長には、相応の識見と行動力が望まれるであろうし、先人の支部長もそのわだちを踏襲され、それなりの足跡を残されている。

平成十年三月の支部役員会で、新年度の役員選考が行なわれ、規約により四ブロックの副支部長が決定した。

支部長は副支部長の互選によって選出されるが、諸般の事情からスムーズに決まらず持ち越しとなった。その後、結果的に前門馬支部長に再度の出馬をお願いし決着をみる事ができた。

門馬支部長もその承諾条件として、執行部体制強化のため四副支部長等の可能な限りのサポートを要請され、スタートを切ることができた。

### 二、支部総会の開催模様

去る四月十一日、アヤハレイクサイドホテルにて、会員約九〇名の諸兄弟姉の出席を得て第十四回定期総会を開催。

高野喜六民の名議長進行のもと、執行部の各提案議題の趣旨説明があり、会員より事業活性化のための施策や役員の業務分担等の建設的な意見がだされ、後日役員会の宿題として総括し、提案通り満場一致採択された。

終了後、昼食会兼懇親会に移行、一年ぶりに友好を暖め無事閉会となった。出席者の皆さん、ご苦労さんでした。

### 三、平成十年支部行事について

四月十一日 第十四回支部定期総会 前述の通り

十月十六日 (バス) 研修旅行の実施

積水ハウス総合住宅研究所とサントリービル  
工場の見学 バス二台 約九十名の参加

十一月六日 グラウンドゴルフ大会の実施

草津市矢橋町 帰帆島公園

参加者現在募集中

### 役員会

第一回 五月三十日 第二回 八月十七日

第三回 十二月中旬 第四回 十一年二月

### 四、大津支部会員数の現況と問題点

大津支部の会員数は現在二九三名(内A会員九名)で、

昨年度中の会員移動状況は、物故者四名、退会者多数、再入会者一名であった。年度頭初三三六名と比較し、約十三%の減員であった。一方十九期の卒業生の方々が三二名入会され、結果的に三二五名の会員を数えることとなった。思うに、退会された会員のつまびらかな理由等は調査していないので判らないが。

\* 会員の高齢化や体調不良によるためのもの。

\* 夫婦会員であるため何れかが退会された。

\* 同窓会員としての相互の連帯感も薄く、会としての魅力も今一步である。(何をやっているか判らない)

\* 会員の殆どが同期会(学科別)等を別に結成し、情報交換や親睦を深めている。

等が考えられ、むしろ、今後の同窓会活動に問題を提起されているのではなからうか？

## 五、同窓会活動に思うこと

これ等のことから、今後の同窓会活動の活性化について役員会で話し合った一部を紹介(大津支部独自のものもある)して大方の批判を仰ぎたい。

\* 地域ブロック担当の役員は、ブロック毎に積極的な活動を行い、会員の連帯感を深め、ボトムアップ的に施策を吸い上げる。(既に実施のブロックもある)

\* 大支部であるため、諸施策の周知に徹底を欠く面も

考えられるので、分割(二三分割)したらどうか？

\* 現会員の中でも積極的に地域活動等に参画しておられるので、その輪を広げたらどうか。

\* レイ大で習得の技能を地域活動として展開する。

\* 会報の効果的な発行と編集内容の検討。

等が意見としてだされ、来年度にむけ検討課題としたい。

## 六、むすび

当支部は北は滋賀郡志賀町から、南は南郷、大石、田上と細長く広範囲なエリアにまたがり、会員諸兄弟も地区によつては点在しており、ブロック役員諸氏の努力も大へんなものがある。しかし今後同窓会活動が有名無実とならぬよう、また会員の参加を更に多く得るべく「共存」「共助」の活性化施策を実施するよう衆知を集めなければならぬと考える。幸い十九期卒業の方々の新入会も決まり、同窓会に新風を吹き込まれんことを期待し、既会員ともども同窓会発展のためのご努力をお願いしたいものである。

## 追記

この度の大津支部役員改選で、はからずも副支部長に選任され、加えて本部の理事に推挙、更に本部では前門馬副会長が兼任されていた会計担当を、引き継ぐ羽目となり、その重責に戸惑い、先輩諸兄の名を汚さないよう任務を全

うしたいと考えております。

従いまして支部にあっては、他の副支部長と協力し、支部長の補佐役に徹し、本部理事としては支部役員会等の意見を本部役員会に反映させ、本部会計についてはガラス張りとし正確な処理で信用を博するよう微力ながら努力をする所存です。会員諸兄姉のご鞭撻をお願い致します。

## 湖南支部の活動について || かわらばんの発刊 ||

支部長 奥村常治郎

一一九名の会員を以て構成している当支部は、今年度の定期総会において、会員相互の意志疎通の充実と理事の担当範囲の軽減を図るため、理事を従来の一七名から六名増員し、二三名にしました。更に、支部三役の若返り策の一環としてその大半を十七期生で務めることになりました。過渡期は、若干の戸惑いもありましたが、前三役や各役員の方強い支援を得て、お陰で今では、総会の決議に沿った今年度の行事をひとつづつこなしています。その内容は次のとおりです。

### 平成十年度湖南支部事業計画

六月二十五日(木) \* グラウンドゴルフ

七月二十四日(火) \* 支部内の史跡見学会の一環としての蓮見学。

十月一・二日(木・金) \* 一泊旅行。明石大橋くフェリー

で和歌山へ高野山詣

十月中旬 \* 新会員歓迎懇談会

十一月中旬 \* グラウンドゴルフ

三月中旬 \* 成果作品展

行事は、ほぼ、二カ月に一回の割合で計画していますが、ここでの特記事項を挙げれば、次の二点だと思えます。

一、『情報交換こそ、会員相互の親睦と融和を図る』との思いによるミニコミ紙『かわらばん』の発行。

二、各行事の企画立案は、全理事を五班に編成し、各班は、一つの行事を自己完結型で実施する。

第一号は、ミニコミ紙ではなく、書状でしたが、次の内容をPRしました。

(1) 五月七日開催の支部総会の議事概要

(2) 平成十年度上半期の支部行事

(3) 平成十年度の本部総会の開催通知

次号の七月一日号からは、B4版のミニコミ紙の形式をとった『かわらばん』で次の内容を掲載しました。

① 支部行事のトップである「グラウンドゴルフ」の結果

② 本部総会の概要と本部の年間行事

第三号には、「蓮」見学会の様子を写真で紹介するなど

少し趣向を凝らした編集をしました。更に、本部の「公開講座」や「同窓会成果展」の応募についてPRしました。

『かわらばん』の配布は、その都度、担当理事にご足労願わねばならないのですが、『かわらばん』を「楽しみにしている」との会員の皆さんの声に励まされ、今後も続けたいと思っています。

## 守山・野洲支部の活動状況

副支部長 辻本 昇

支部員数は、本年卒業生（第十九期）九名が同窓会に入会して戴き、総員百名丁度の大世帯となり、友が増える事は嬉しい限りであります。

県レ大の建学の精神に則り、母校の発展の為に、本会や支部の事業活動へ積極的に参加取り組む事をモットーに、本年からは過年度提案しても出来なかった事業を理事会で協議し乍ら極力勧めて参ります。

その第一弾が、今年始めての「野洲・守山支部作品展」でした。先ずその内容と成果を披瀝し、御参考になれば幸甚に存じます。

### 一、平成十年度作品・成果展募集要項

(1) 支部は作品展・本部は成果展として、A4一枚に集

約募集の結果、下記京都新聞紙上で発表の通り支部作品点数四七点がざらりと、陶・書・絵画・ちぎり絵・写真・編物・造花等々バラエティ。

見学者も百名以上の記帳で、質問返答に追われる場面もしばしば、会場は野洲町立中央公民館 特設ギャラリーにて、九月三十日（水）～十月二日（金）迄作品展、大盛況でした。

(2) 十月三日（土）～十月四日（日）の二日間は、本部成果展として、二点を出品、他の支部作品に優る共劣らない力作をズラリと展示する事が出来感無量でした。



陶器や書に個性込めレイカディアOB作品展



支部役員、理事並びに会員皆様のご協力に対しまして紙上をかり厚く御礼申し上げます。

## 甲賀支部の活動

支部長 今井 博

### 二、親睦グラウンドゴルフ大会

日時 十一月六日(金)

場所 守山市立入が丘河川公園

特設グラウンドで

### 三、日帰り親睦研修旅行

日時 十一月十六日(月)

行先 豊かな自然の場の山絵野温泉へ

田村神社参拝(希望荘(宴会))

(陶芸の里へ)

### 四、定期総会時に併せ講演会も予定しております。

以上の通り計画立案より実施に至る迄の間、理事会において十分検討し周到なる準備と、綿密なる業務分担によって、諸行事を行っております。

今後共会員各位の積極的なご参加と、御意見ご要望を切望して止みません。



平成十年五月十四日甲賀郡支部総会を水口町碧水荘において開催され、平成十年年度、郡三役と各町の理事が決定されました。

### 一、役員

支部長 一名 副支部長 男女各二名

総務会計 一名 監事 二名

理事は各町より一七名を選出し、以上二三名の役員が中心となって、向こう二年間本部の事業を初め、支部活動に頑張っていきたいと思っております。

### 二、事業内容

当支部は四方を山と谷にかこまれ、昔は二十五町村ありましたが、町村合併で現在は七ヶ町に併合され、現在ではお互いの交友関係も大変多くなって来ました。

これも一つには、レイカディア大学同窓会のお陰でもあろうかと感謝をして居る次第です。

事業としては、現在のところあまりありませんが、唯一つ各町の当番制で一日研修会を開催し、郡内の歴史文化をお互いにもっと良く知り古代から現在までの郡内での出

来事や色々な知識を身につける事につとめ、終了後親睦会においては、古い昔話から戦争の話迄、終始なごやかな雰囲気の中でお互いの交流を深めて居ります。

本年は水口町が当番で十月九日実施をされます。

毎年各町の協力によりまして福祉バスの使用を許可され当番の委員各位に心より感謝する次第です。

当日水口町福祉バス一台、滋賀交通バス一台、計二台で郡衛生処理センター、牛ヶ淵・姫塚・栄照寺等を見学し碧水荘で懇親会となります。参加会員が年々多くなり本年は七十名と増加し会員の送迎に苦勞する様になり大変嬉しい状況です。又当日はアトラクションとして大正琴、舞踏等が計画され、盛況裏に終了する様願って居ります。

当番の水口町の役員様ありがとうございます。

今後の計画とし、ゲートボール・ミニゴルフ・会員有志の旅行会の実施等を考えて居り、何か一つは実現出来たら良いと思つて居ります。

なお、十月三・四日の二日間草津校で開催されました成果展には当支部より八名出展され信楽町の忠六窯の先生より大壺二個出展して頂き心より感謝致して居ります。

会場も良く見学者と多くあり、皆感心して見学して居られました。甲賀支部も来年の事を考えれば、各町に何点かの割当てをお願いしてでも、色々な芸術品など、数多く展示して頂ければと思つて居ります。

現在新しく入会された会員と旧会員全部一五三名ですが三名死去され、一五〇名で活動中です。

亡くなられた故人の御冥福をお祈り致します。

## 近江八幡支部の事業運営と 活動状況の報告

支部長 佐々木尚一

当支部は老人大学校が二十年前の昭和五十三年九月に開校された発祥の地でもあつて、又同窓会が創立された伝統のある支部である為に、長年に亘つて先輩達の懸命の努力によって培われて来た栄光の歴史を受け継いだ私達は、支部の由緒と先人達の権威を汚すことなく、その発展と会員相互の親睦を図る事と併せて建学の理念を生かして地域社会に貢献する事を念願に、役員始め会員諸氏がその趣意を理解して事業活動に協力しております。

当支部の事業活動の概要を報告申し上げ、ご参考にして頂ければ幸いかと存じます。

### 一、平成十年度の支部総会について

恒例の支部総会は四月二十五日（土曜日）会場は坪清（例年同場所）で開催した。

開催時刻の十時に間に合うように、マイクバス二台を配

車して市内を巡回して、来賓、会員の集合に配慮をしました。

来賓として、行政から市長始め岡田健康福祉部長、中西社協事務局長が、本部から富田健康生がい課長、森安事務局長が臨席されました。又同窓会から野中会長と大林甲賀支部長が出席してくれました。

総会の冒頭に物故者（昨年度十一名）に追悼の黙禱を行い、続いて市長と富田課長に当支部の発展と激励の祝辞を頂いた後、米寿二名の慶祝を行い、議事の進行により議案の審議がいずれも承認可決されました。当日の総会出席者は五十名で、地区の役員が会費（本部一〇〇〇円、支部二〇〇〇円）と当日の懇親会費を纏めて会計に渡す事になっています。（本年度の会員の確認と予算の概算が把握出来る為）

総会が終り懇親会が開始され市長始め各来賓の皆様が同席されて終始和やかな交歓により融和の効果がありませんでした。

## 二、本年度の本部総会における会長の選出について

平成十年度の総会には湖南支部の担当により、会場をJ R草津駅西口「クサツエストピアホテル」で豪華な雰囲気で開催され、当支部は支部長以下三五名が参加した。

当日総会の議案の審議が行われ、先ず会則の変更が審議

され、これに伴って役員の変更により当支部の佐々木支部長が今期会長に選出された。故安倍前会長に続いて当支部から栄誉ある会長を重責され、支部挙げて感激と全幅の支援を確認した。

## 三、支部会報（十七号）開校二十周年特集号の発刊について

本年度は当地に老人大学が創立されて二十年の記念に当たり、当初八幡支部の会報（日牟礼同窓会）が五十五年に創刊されて、爾来先輩達の並々ならぬ研鑽と内容の充実を計られながら発行が維持されて来ました。創刊号からの伝統を継承して独自に支部会報を発刊している経緯を受け継いで、特に本年は当支部に相応しい内容の特集記事の編集を心掛けております。又例年の通りに福祉行政の拡充の面から関係の方達や大学当局の先生達にご支援の玉稿をお願いする等、号を重ねる毎に企画を充実して会員相互の情報交換の寄与に努めております。

なお、毎号地元企業の皆様から企業の情報交換を兼ねた広告を協賛して頂き、紙面の充実に寄与して頂いております。

## 四、当同窓会の本年度の事業活動の概要を下記によりご紹介致します。

介致します。

(1) 婦人部の活動について

\* 手芸教室（七月十七日 金曜日）十時～十五時まで

ひまわり館作業室 毛糸の吊り下げ人形 二体

参加者二十五名 昼食後も力作に挑戦される。

\* 料理教室（十一月中旬の予定） フランス料理の実

演と会食（市内の有名店）

(2) 研修旅行 十一月六日 金曜日 奈良明日香地区

高松塚古墳外古代史の勉強

参加予定者 四五名 観光バスによる運行

五、近江八幡市福祉総合センター（ひまわり館）の開設

当市の長寿社会のまちづくりを目指して高齢者の交流センターとしてこの四月開館になり、社会福祉協議会の運営により多目的施設として活用されることになった。研修室、会議室、ホール、料理教室、作業室、浴場、食堂など明るく新しい施設が、低料金で利用が出来る為当支部も会議を始め各教室を利用して福祉活動に協賛して効果をあげている。

六、公開講座の卒業生の事例発表について

去る八月二十九日（土曜日）

米原文化産業交流会館 ホール 十三時から

当校の開校二十周年記念行事として特別講演があり、こ

れに先だって恒例の卒業生の男女による活動事例発表が行われ、当支部の馬場利さんが「地域に根ざした活動」

レイカディア大学で学んだ事を生かして……と題して、長年に亘って地域における、公的団体のボランティア活動の中心になって努力された体験を話され、当日の参加者に良き教訓と深い感銘を与えてくれました。

## 中部支部だより

支部長 武久 四郎

此の度、中部支部の支部長を引き継ぐことになりました、身の引き締まる思いです。前任の安土町には、二期四年の長きに亘り、支部の円滑な推進にご尽力下され、本当にご苦勞様でした。私達も一旦引き受けたからには、役員一同協力して、高齢化に相応しい支部づくりを勧めてゆきたいと思っております。

当支部は一市七町のブロックでしたが、蒲生町が十三期生を最後に入会者が閉ざえ、更に高齢化に依る自然減少でついに、昨年三月末日を以て止むを得ず脱会されました。これも時の流れで致し方ないと思っておりますが、でき得れば一日も早い復帰を願っている次第です。

扱、同窓生も平均年齢（七十四才）近くになりますと、いくら健康な人でも、一病や二病のお付き合いは誰しもあ

ると思います。そうしたなかでの社会活動も自ずと体調が先行して、遠方よりも成る可く近くで楽しみたいのは当然かと思えます。従って加齢と共に活動範囲もずいぶんと制約され、地域での活動が主流となり、なかには在宅状態で活動を希望される人も少なくありません。このように高齢化の推移に対応するためにも、支部の存在価値をもっと浮揚し、本部の基本姿勢に基づく「支部があつて本部がある」支部づくりを目標に務めてゆきたいと思っております。現在当支部としては、これと云つた活動はなされていなが、昨年より会員の要望で、何をするにしても、先き立つものはこのことで、支部会費の一部を助成することになりました。僅かな額ではありますが、これが活動の核となり支部の発展に繋がればと思っております。

去る八月二十日に、中部支部の第一回理事会を、八日市の延命荘で開催いたしました。先ず七月三十日に、本部の第一回常任理事会の議題中、改組に伴う各役員の職務分業の説明と、本部定期総会に対する提言の検討及び、広報部（会報発行）と、研修部（成果展）よりの依頼事項等の説明を行いました。最後に支部の活動方針の検討に入り、特に昨年より支部会費の一部を会員に還元されている。所謂助成金の有効活用を中心に検討が始まり、各理事より活発な提案を頂き、最終的な纏めは日を改めて次回十一月の理事会にて再検討の上纏めてゆきたいと思っております。

尚、本日の理事会にて、昨年より提案されていたグラウンドゴルフ大会が、今年に持ち越されましたが、漸く纏まり来る十一月月上旬に布施公園で、参加者五〇人程度で大会を行うため準備中です。この大会を契機に以前より会員に対する情報の提供が懸案となつておりましたが、幸いグラウンドゴルフ大会の連絡も兼ねて、この際会報の発行もやればとの意見が纏まり、九月中には第一号が発刊される運びとなりました。何分、第一号なので不慣れな点はお許し頂き皆さんと共に、永く継続させてゆきたいと思ひます。

## 湖東支部だより

支部長 磯貝 澄雄

### 一、支部運営の実態と課題

同級会或いは同期会等のように、会員構成が横の繋がりで出来ている組織で行われる各種行事については、関心も強く、出席率が極めて高い、反面、同窓会という縦の繋がりで出来ている組織に於いては割合関心もさうなく、総会はじめ各種行事を催しても、出席者が少いという実態が一般的のようであります。

わがレイカディア大学の卒業生が会員で構成されている両者（同級会と同窓会各支部）の関係で考えてみると、同級会の場合は、二年間、同じ学び舎で共に学んだことが

大変強い絆として互いに結ばれて、自然発生的に結成される団体であります。同窓会の場合は、卒業した後はじめて加入して会員になるので、会員相互の結びつきが最初から全く異なり、帰属意識とか、関心などが薄いのは当然なのかもしれない。

わが湖東支部は、米原校舎が出来てから飛躍的に会員数が増え、今後同じようなペースで増え続けることが予想されますので、それに対応すべく活動のブロック別の実施をはじめ、組織上の改編と役員構成など、大幅な改正を行って、支部の運営や活動の根本的な見直しを行ったところであり、一方で会員の退会者も後を絶たず、これを防止、抑制することに苦慮していることも実態であります。因みに最近十年間の会員数の推移を見ますと、別表のように、退会者数（物故者を除く）は年平均5%以上に及んでいるのが現状であり、これを座視することが出来ない状況であります。

## 二、支部の運営・活動の基本方針

前述のように同窓会は、本質的に同級会とは異なり、会員の帰属意識は割合希薄なものであり、たとえ、その活動母体が支部であり、地域的な限られた範囲内であっても、入会当初から同窓意識は薄いものであろうと思われるので、会員として定着させるには、会の運営や活動に魅力が

無ければ難しいと考えられることから、すべての会員一人一人に、会の動きや、催しその他情報を細大漏らさず伝達し、また逆に会員からの意見や、要望などが会の運営・活動に反映させられるようにして、会員の同窓意識を喚起し、支部活動に関心をもってもらおうようにすることを基本方針と考え、その趣旨に沿った活動を展開しているところであり、あります。

## 三、活動の概要

### (1) 部会報の発行

本年度第二号として、総会提案事項を中心に、その他全会員名簿のほか、本部の定期総会の概要等を内容とした会報を発行しました。今のところ年一回であります。必要に応じ随時発行も検討しています。手作りにある為、さほど経費はかからず。それくらいは十分出来る予算措置も講じてもらっています。

### (2) 分会活動の促進

支部といえども、一市二郡にまたがり、会員の分布も地域によって随分差があり、支部全体の活動としては、定期総会と、前記会報の発行及び支部運営の為に役員会（運営委員会と常任委員会）のみで、あとは各分会（彦根・愛知・犬上）単位で活動を行っています。活動費は、会員一人当たり、年間五〇〇円で、会員数に

応じて予算配分を行っており、支部総予算の三〇%近くが分会活動費として充当されています。分会活動の内容については、夫々地域の特性に応じて、各分会長を中心に夫々企画実施されており、その結果については、事業内容と会計面の報告を、会報などを通じて行うようにしています。

昨年度は彦根分会で行っている新入会員歓迎会について本誌で報告しましたので、今回は紙面の都合で、犬上分会の活動についてのみ概要を報告します。

\*スポレク科卒業会員によって、各单位老人クラブを訪問し軽スポーツの啓蒙・普及

\*園芸科卒業会員による技術研修（先進地見学を含む）の実施

\*文芸科卒業会員指導により、地域老ク連の短歌クラブ結成と指導及び古文書学習会（ともに甲良町）結成と指導

(3) その他

\*講演会

定期総会に於いて、議事終了後、講演会を実施しています。講師は今までのところ（最近三年）は会員の中に学識経験者も居られるので、内容は講師に一任する形で、約一時間、懇親会の前に行って、好評を得ています。

## 湖北支部活動の軌跡

支部長 林 憲雄

平成十年

五・二四 支部総会

虎姫・魚作樓にて県会長 野中正氏を迎え  
会員約五〇名出席開催

平成九年度会務会計承認と平成十年年度計画  
について審議

規約改正（顧問制）役員改正等によって議決

林支部長選出・挨拶 等

懇親会 午後二時終了

六・一一 県定期総会

草津市エスとピアホテルで開催

支部会員二〇名出席

六・二八 支部役員総会

午後一時三十分より米原町公民館にて開催

林会長以下二五名出席 役員自己紹介

県及び支部会費納入 六月末納入について

会報（四号）の準備について編集委員の選出

と発行計画

県本部と支部行事予定について

その他 顧問制の承認と新入会員（十九期）

の入会等

七・五 編集委員会

編集委員一〇名出席（三名欠席）米原町公民館午後一時三十分原稿内容の検討、内容を厳選して感動する内容を原稿用紙一枚にまとめて記載するように取まとめる。

八月三十一日・第二回 九月六日

広告料の協賛 依頼

八・二九 公開講座

会員堀田肇氏 中日交流体験発表

露の五郎氏の講演をきく会員多数聴講

九・六 第二回編集会議

編集委員一二名出席 於 高月区公会堂

文集原稿九三部 広告料二十九万円

文集の読み合わせ 四号の編集順序

印刷業者の決定 三社に依頼見積決定

その他事務連絡等について

九・八 印刷業者説明会

長浜 下村印刷 林・川崎説明

高月 谷口印刷 林・大比叡説明

木之本 柴田印刷 林説明

三社の見積書を検討し、高月 谷口印刷に決定

九・二五 支部役員研修会

十九期生歓迎会

役員二一名参加して木之本浄信寺・庭園・地藏詣でをしてから木之本町日吉座にて懇親会 十二時より午後二時迄 十九期二名参加し交換会に入る

十・二 成果展作品搬入

成果展参加作品

長浜 四点 坂田 六点

東浅井 一点 伊香 五点 計一六点

十・四 成果展作品搬出

会員片桐正太郎氏の好意により二日及び四日夫々搬入・搬出の奉仕を賜り遠距離を無事参加することが出来た。

十・二八 研修旅行

紅葉の白山スーパードリフトと白川郷の日帰り研修旅行の予定





## 高島支部の特異性

支部長 志連政五郎

何時も申し上げる事ですが、高島支部は地域的に大きいハンディーがあります。各種イベントの多くは天津・草津・守山といった湖南で、たまに湖東・湖北に移っても彦根・長浜・米原あたりが開催地という、何れも私達から遠く離れた場所ばかりです。参加意欲はあっても、交通上の問題で直ちにおいそれとはいかぬ点があり、例えば草津市あたりで行われる行事に参加する場合、朝家を出て夕方、家に帰り着くまでの所要時間は、皆様の想像以上です。ご承知の通り湖西線のダイヤは、高島郡内各駅では一時間に一本、良くても四・五〇分に一本程度しか利用出来ず、乗り遅れたら大変。だから、早目に駅へ出向かねばならず、秋から冬の日の短い頃や降雪期はたまったものではありません。でも私たちは、会員七八名の極めて小さい支部組織ですが、本部同窓会総会を始め成果展への出品、大学公開講座の受講、研修旅行への参加等々、常に要請数以上の会員が参加し、研鑽と交流に努めております。特に新旭町は、大学公開講座に何時も町福祉バスを運行され、会員外の方々も加わって多くの方々を受講されます。また、昨年十一月実施の「近江聖人中江藤樹記念館と興聖寺を訪ねる」研修旅行では、折角県内各地からお見えになるのだからと、知り尽

くしている土地であるにもかかわらず、八名の支部会員がこれに参加し企画を盛り上げました。成果展についても、支部会員から託された作品を軽トラックに積み、毎年、往復三時間の開場に搬出入しております。

支部会員も加齢とともに一人一人と退会されるようになりしました。加えて、冒頭にも述べましたように琵琶湖北や南に大きく迂回しなければならぬとあって、大学への入学希望者も多くは望めません。

けれど、そんな状況の中にあつて、高島支部会員は多くのハンディーを克服しながらレイ大建学の精神の具現のため、切磋琢磨しつつ努力しておりますことを報告致し、筆を擱きます。



# 隨筆

## 色即是空

大津支部 第八期生

園芸学科 村田小太郎

私は明治四十五年の生まれですから、さ程の高齢者ではありませんが、明治四十五年には赤児のやや子でしたのが今日では此の姿です。ガタガタのボロボロ・ヨレヨレの老いぼれです。

此の有様を人は、自然の摂理であるとか、祇園精舎の鐘の声であるとか、憂き世の常、憂き世のならいとか、又色即是空の色から空に移り行く過程の一端の姿であると申されます。色は目に見える物、空は虚・無であり、何にもなしの空っぽ、万物の一員である私も、今でこそ形があるけれど、何れは虚・無・空・になる道すがらの姿なのです。我々の住む地球・太陽系は今を去る四十六億年の昔に空から色に生まれたのです。そして現在が最盛期・四十五億年後には太陽も金星も地球も火星も一丸となって大爆発して、元の虚・無・空になります。その太陽系九十億年の中の私です。明治四十五年生れが太陽系九十億年に及ぶ・何と大袈裟な話となりました。

老大（レイカディア大）も二十周年との事、私は八期生ですから卒業して十年余りになります。在学中の思い出なのですが、今日となってはすべて全部が最高最大の嬉しい思い出になりました。

八期生は入学早々に八期会なるものが創設されました。すると早速に他学科との対立・トラブルが起りました。十年前はお互いにエネルギーが有り余り、個性のぶつかりあい、パワーの豪球が投げかわされ、お美事壯観なものでした。当時のエースを申し上げますと、文芸の吉田歳末氏そして陶芸の田辺博氏、生活の堀井誉志春氏、園芸の松田春雄氏のご面々でした。

又八期の女学生諸姉も仲々の豪の者、傑物揃いとは失礼、淑女・才媛揃いで、巴御前あり、紫式部あり、小野小町あり、弁財天あり、吉祥天ありの、バラエティーにとんだお出ましでした。

私も齊々多士の男女と肩を並べたかったのでしたが所詮はゴマメの歯ぎしり、蟻螂の斧、八期会の切れ端でした。それでも今日では十年前の楽しかった、嬉しかった思い出を胸に八期会の総会には必ず出席して、旧交を温めあい、パワーを交換しあうのが何よりの楽しみ、年一回のその日を待ちわびるのです。

八期会も十二年前には全くの空であったのが色となり、この色（現在の八期会）も、あと二十年もすれば空となり、

全くのあとかたもない、虚・無・空となって消えうせるのです。

何にも知らない者が、知ったかぶりして、身勝手などほうもない事を申しました。これも賢愚和楽、混在共生の一員、御免蒙ります。

## ささやかな動きの 中での喜び

大津支部 第十五期生

文芸学科 関

武

総務庁は、去る九月十四日、我が国の高齢者人口の調査結果を発表した。それによると、「敬老の日」の十五日現在の推計として、二千四十九万人（前年比七十五万人増）と初めて二千万人を突破し、総人口の一六・二%を占めた。従来、国立社会保障・人口問題研究所が発表して来た二十五年には、日本人の四人に一人が六十五才以上の高齢者となり、超高齢社会が到来するとの予測通りの推移となった。迫り来る少子高齢化を考えさせられ、その到来を再認識させられた。その真只中の私は、常日頃心身の健全な内に何か出来ることをと求めていた。

滋賀県でも、レイカディア構想を掲げ、いきいきと生きて行く高齢者像を求めて、“健康づくり・生きがいづく

り”事業が、毎年開催されて来た。その一つとして、レイカディア財団が、平成九年十月から平成十年三月迄の半年間、「新高齢市民学び花咲く地域貢献講座」の名称で六講座を開設した。私はその事業目的に賛同した。地域の活性化を図るための力として、高齢者を貴重な人材集団として協力をとの内容に、そんなことが自分に出来るかなと、自問しながら、六講座の中の「手作り紙芝居」を受講した。何十年振りの画筆を持って、グループで支え合いながらの苦行とも云える六カ月だった。

受講後、県下から集った一八名は、「手作り紙芝居グループ 夢いっち」と名付けて、具体的な実践活動に入って行った。月に一度例会を持ち、各目新作の発表、上演後の反省、次回の予定と出演者の自己申告等々円滑に運営されている。

善意と熱意だけの素人グループの上演が、本当に喜んで受入れてもらえるかと、不安危惧の出発だった。

「夢いっち」グループのこの半年間の動きは、県下の公民館、幼稚園、保育園、学童保育の場、障害者を含めハンデを持たれている方々を収容の各種施設、特養老ホーム、老人クラブ等々、二十五回の交流の場を持って来た。

真情を込めての上演が通じたのか、どこの場でも「ありがとう、又来て下さい」の言葉は、心に染み入り有難く又勇気付けられた。

子ども達からは、純真さと、伸びて行くすさまじい程のエネルギーを受けて感動し、障害者からは、清健で生きることの大切さを教えられ、又高齢者からは、同世代を生きて来た共感を通じて、過ぎ越して来た過去への反省と、新たな生きる力を載いた。本当に嬉しく感謝の毎日である。私は青春という言葉が好きだ。年齢は関係ないと思っ  
ている。一生涯青春の生き方を実践して生きたいと切に思っている。

## 戦の日々

湖南支部 第十三期生

文芸学科 堀池 栄一

今年もまた終戦記念日が巡って来た。

比島のミンダナオ島の密林に死すべきであったのに生かされて八十歳を迎えた。無謀の戦争のために五十余年を経た今も多くの戦友が異境の地に眠っている。ミンダナオ島の密林の奥深く、食糧も無く、戦傷、マラリア、赤痢、栄養失調等の治療を受ける事も出来ずに死んだ戦友を思う。

臥せいたる母が伸ばせる手のぬくみ手に

残りいる出征の朝

密林に捨てて置かれし傷兵に水あたえざりし

今も悔ゆらむ

暗号書奪られし伍長二度三度軍法會議と

別れしがまま

息のある傷病兵の靴はぐも見ぬ

密林深き戦の日は

犬肉をひと片うかべし飯盒に

密林を漏れ射す月の影

野生せる春菊すべて採りつくし

何に求めん明日よりの糧

我が糞の真っ青の日の続きゆく

竹のみ食いて命ながらう

ダバオの山に終戦のピラ降る八月二十三日

敵謀略と上官信ぜず

マラリアに狂いし戦友をミンダナオの

密林に捨てて還り来りぬ

PWと記せし戎衣を着し吾ら

スタッケードに帰りの船待つ

祖国とは生きて踏むもの復員してまず仰ぎたる

雪の富士山

たらちねの母が死すなと縫いくれし

五銭貨に守られわれ生還す

万歳の声に送られ征できしに「忌」の紙貼られ

母すでに亡し

いたましき思い出多き「捕虜収容所」

八十路近きにまだ夢に見る

密林に犬を料理せし兵長の

賀状来らず君も逝きしか

# 楽しい仲間

湖南支部 第十五期生

陶芸学科 鷹野

弘

私が旧老人大学校に入ったのは平成四年十月のことである。当時、本校学舎はなく、滋賀会館、大津商工会議所、大津勤労福祉会館と教室を転々とし、陶芸実習は水口町の碧水荘で、という状況であった。翌平成五年十月に現在の校舎が開校され、その名称もレイカディア大学と改名された。二年目は設備の充実した現校舎での快適な学生生活を送ることができた。幸運である。

陶芸学科十五期生といえばまとまりの良い組、との評判を頂き、私達自身もそのように自負するよい仲間である。そのことについては、入学当初、「過去の経歴、つまり学歴や肩書き等、現役時代のもは一切抜きにして、お互い裸になって良き学友となるように」と論された堀野先生のお言葉を守って来たことが現在のまとまりの大きな力になっていると思う。

その後の我が仲間達の活動について紹介させて頂く。穴窯体験実習について、第一回は在学中の平成六年八月に信楽町のえびす窯（民間窯）を借用して行った。窯詰め、窯出しは全員で、焼成は四班版に別かれて各班一昼夜ずつ担当した。全員初体験とあって緊張度は最高、真夏の作業で

疲労は極限に達した。この時、多分三日目だったと思うが最前列の棚が崩れ、真っ赤な炎の中に作品が重なり合って落ちた。無残な姿を目前にしながら焼成途中のことです。どうすることもできず焚き続けた。

不安と期待の入り混じった中で窯出しの日を迎え、息をつめ、目を凝らして出てくる作品を見つめた。大壺に小物が癒着していたりして、やっぱり駄目かと嘆く人、面白がっている人もあって傑作、珍品が出た思い出深い穴窯体験だった。第二回以降は県立陶芸の森の穴窯を借りて年一回実習を行い、本年九月に第五回目の焼成を終えた。この間、陶芸の森の河井先生に懇切なご指導を頂き、棚組から焼成、窯締めへと徐々に技術を習得して、やや自信を得た。余裕ができて依るともなれば怪談やら艶話も出たりして結構楽しい焼成作業となる。作品もいろいろだが、中には玄人はだしの物もでてくるような昨今である。

作品が増えて来ると展示会を、との話になってレ・大ロビーのほか近江八幡市瓦ミュージアム、NHK大津ギャラリーを会場に展示会を開いた。多数の方々に鑑賞して頂き感謝している。

ほかに年間八〜十回のグラウンドゴルフ会を開催し、また忘年会又は新年会を毎年開催して友情を深めている。

活動は以上のようなところだが、常に明るく、楽しくをモットーに肩ひじ張らず、今後も長く続けたいと願って

る。蛇足ながら仲間はその地域の地域においてさまざまに地域活動を行っているのは勿論である。

## まだまだ現役

守山・野洲支部 第五期生

文芸学科 川嶋 勇

「あんたんとこのお地蔵さんは大事にせにゃいかんよ、あんたが戦地から無事に帰れたのも、このお地蔵さんのお陰や、昔この辺りで『おこり』がはやった時、ここのお地蔵さんにお参りして藁でお地蔵さんを縛ってお願ひすると、不思議に熱が下って快くなったもんや、重兵衛屋敷のおこり落しのお地蔵さんと言って、近郷の人はみんなよく知っとる」

ビルマから復員して、やっと人心地のついた或る日、隣家の老人からそんな話を聞きました。五体満足に両親の元に帰れたのも何かの因縁、神佛のお陰、この命は自分だけのことに使っては罰が当たる。少しでも世の中の為になるような生き方をしようと心に決めて今日まで努めてきました。

陰の力でいい。お城の濠の石垣でいい。自分が少しでも周囲のお役に立ち、自分の存在が少しでも周囲に明るさとなれば望外の幸、忙しければ忙しいだけ体を動かす機会も

多くなって健康に接がってゆく、喜ばなくてはいけない。そんな思いで八十四歳のこの年まで、及ばず乍ら前向きで事に当って来ました。

社会教育指導員、老人クラブの会長、老ク連の事務局員、青少年育成会議、友愛協力員、シルバー人材センター……：……といろいろな体験をさせていただきました。

昭和五十九年九月に、県老大五期生として卒業し、三一名の文芸部同窓生が、大きな希望に燃えて県内各地に散ってゆきましたが、あれから十四年、現在では一七名になりました。加齢と共に周囲も、自分も淋しくなってゆきますが、体の動く限り初心は貫きたいと思っております。

自分の足で行きたいところへ行け、自分の手でしたいことが出来る、これ程有難いことはない、つくづく思うこの頃です。 合掌

## 手づくり 『紙芝居』 a.l.a.Carte

守山・野洲支部 第九期生

陶芸学科 中村 勝一

「皆さん、今日は。さてこの絵は何でしょうか!」「ハサミや」「もう一つもハサミ」「ではギザギザのものは……」「カニさんのや」「そうです。このカニさんの缺はどうしてギザギザになったと思いますか!」「知らんでー」これ

がこれから演じる紙芝居の雰囲気でした。子ども達と自由に楽しく、おしゃべりできる事がスタートです。度胸だめしです。

「私達のくらししている滋賀県に、美しい飲み水が一杯入っている琵琶湖があります」「知ってるぞ：」「そのほとりに日本一立派な富士山の姿に似ている近江富士三上山がありますね」「この近江の三上山にカニさん達が、美しい娘さんの命を助けたお手柄カニさんのお話が伝わっています」「おっちゃん、絵が上手やなあ。どうして描いたんや」「写真みたいやなあ」やれやれと思いつつ、この風景画をどのようにして横写したかの話にそいながら、「では、昔・むかしその昔からこの姿の良い三上山の奥に、それはそれは恐ろしい大きな体をもった化物のムカデと云う怪物が住んでいました。」「そう、その彼のものけ姫にいた怪物のような：：そしてこの百足は人喰いでした。(安土町幼稚園教室)

私もときどき、幼少年時代の夢をみます。チャンバラ遊びに一生懸命になり、時代劇のヒロインとして暴れ狂っている自分から、ふと目覚め現在の子ども達の遊び回っている姿が少ない事に気がつきます。

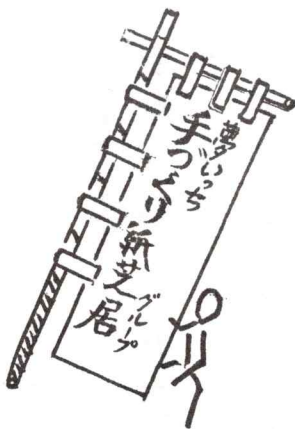
では何をして遊んでいるのかと云う疑問が湧きます。核家族・少子化が進み、子ども達同志で遊ぶ機会も少なく、塾通いに幼少年時代から追われ、TV・パソコン玩具など

に止むなく熱中している。孤独な時間を空しく費していること。家庭内も夫婦が共働きの方々も多く、じいさん・ばあさまも孫等とは、肩のこるような遊びは敬遠しています。その昔、チョン・チョンと鳴る拍子木の音色に誘われて、そこかしこに戯れている悪童達が自然に集まり、一銭から五銭までのおあし代を払い、黄金色に似た飴や駄菓子を求め、「ではこのお話の続きは又、明日に残しておきましょう」と、どのような物語であったか忘れたが、弁士のおっさんが自転車荷台に紙芝居の舞台を乗せて、去って行く姿に哀愁を覚えた記憶が残っている。

レイカディア地域活動実践セミナーの講座の一つ『手づくり紙芝居グループ』は、平成九年十月より十年三月終了。安土・甲良・彦根・近江八幡・守山・野洲・中主・甲賀・石部・大津のメンバー一八名(レイカ大出身五名)平成十年十一月中旬の二期生(虹)グループも終講予定。私達は(夢いっち)と云うネーミングから、活動は無理をしない・ボランティアである・

月一回の例会を持ち反省し、健康の許す限り活動できることを感謝しています。

近江の昔話や日本人の心の故郷、民話



等々紙芝居としての題材は豊富にあり、伝承・物語りをどのように脚色化して画材として表現し、話の心を伝える「話術」の研鑽に努めなければならぬ。やはり一番むづかしい作業は「絵づくり」であろう。ともに楽しむ、自分の声で、物語に惚れる。わかり易い言葉で、声の抑揚と速さ、間のとり方、ポイントをはっきりと、最後にジェスチャーにも注意して等々を学びました。

平成十年三月、野洲特養老悠紀の里六・石山ガル・石部図書館・能登川水車野園・栗東治田児童館・守山吉身小学校・彦根河瀬公民館・安土町ディサイバースセンター等々、七・八月は夏休み？を返上してメンバー交代で実演サービスさせていただきました。

〈題名の一例〉めおとづる・むかしのとりいれ・ふうせんの旅・などなどで遊ぼう・はなくらべ・おはなのおどり・かぼちゃへび・人情川柳・六助と地蔵・ぴょんちゃんこりごり・おてがらカニさん・クチュクチュペー・三吉とおかめの海水浴等々でございます。ご希望の方の申込みは、事務局へどうぞ！

#### ▼手づくり紙芝居、事務局

TEL ○七七―五五二―一一九一

☎五二〇―三〇一四

栗太郡栗東町川辺四三〇―一五

中前 純 一

## 老いの感動

甲賀支部 第十四期生

園芸学科 林 茂男

古い箆笥から見つけた和綴の一冊、表紙に墨字で「大正十五年休暇日誌」とあり、これは三雲へ嫁いで若くして逝った私の叔母「そえ」の水口女学校最終学年の夏休みの日誌である。奇しくも私が此の年四月の生まれゆえ感慨も一入胸躍らせてその場で一字一句に目を走らせた。それは遠い昔の我が家の夏の記録。今日も又寒暖計が華氏九十三度とあり今年に似た暑い暑い夏であった様だ。八月三日は夏季清潔検査の日、早朝から大掃除、昼前にはツメ襟服に帽子、チョコ髭の巡査が腰にサーベルを振りながらいかめしく肩いからせて村役人と共に家々を巡回されたとあり、私も幼い時幾度か目にしたあの光景が甦る。八月七日五時三十分起床、いそいそと朝露を踏んで前の田圃の里芋の葉に溜まった玉の露を硯に取り色紙の短冊に「七夕天の川」と書いて笹の葉に吊す。採りたてのみずみずしい茄子トマト西瓜を供えてすみきった夜空の星に家内安全を祈った。当地は七月七日は農繁の為か最近迄月遅れの七夕行事が行われ、のどかな田舎の風習は私も体験した幼い日の懐かしい思い出である。

八月十日は我が家のお墓参り、此の日、茂男の母の実家



から乳母車と食い初めの祝い膳が届くとある。当日は私の曾祖父の妹に当たる八十四才の「しげ」が元気に里帰りしていた様だ。誕生間もない私は、其の日集まったみんなから膝移しに可愛がられた由。今老境七十三才を越えて私には想像もかなわぬ「しげ」老母の姿を胸に抱きつつ、当時の様子を偲んでいる。八月二十七日、昼前から一天俄にかき曇り、雷を伴う激しい夕立あり、これで猛暑も幾分やわらぎ涼しくなった。我が家の川辺の石垣には、雨に打たれた白萩が可憐な花をさかせている、と……。

その昔十七才の叔母が目にした此の白萩は今年も同じ我が家の川べりに秋の七草を誇るが如く咲き競っている。大木にも老木にもならず此の場でひたすら百年の風雪にも耐え抜いて来たであろう。私は子ども達にもこれを伝えて永く大切に残したい。

その昔うら若い乙女心に映るが儘を書き続けたのである。此の叔母の日記は、今は色あせて蝕んではいるが、我が家の遠い昔を色々教えてくれた。私の年輪と共に眠っていた此の一冊が、ひととき私を懐かしい童心に還らせ、若い血が蘇り、深い深い感動を与えてくれた。

思えば大正の末期から激動の昭和・平成の今日まで、お陰で健康に恵まれ、今も尚少々農業に汗するかたわら、趣味の盆栽いじり、又地域の老人会や、卒業から五年目の県レイカディア大学同窓会の世話役など、日々何かと忙殺さ

れてはいるが、元気な中学・高校と三人の孫たちにも囲まれ家族八人平和な日々を心から感謝している。

## 戦争と俳句

甲賀支部 第十五期生

文学学科 千代 岳夫

海に出て木枯帰るところなし 誓子

今年も八月十五日政府主催の戦没者慰霊祭が東京の本武道館で開催され、多くの遺族が出席されましたがどの顔も深い皺の高齢者ばかりで戦後五十三年の歳月がしみじみと伝わってきました。戦中、戦後に青春時代を過ごした私達の世代は忘れることの出来ない当時の数々の想い出と共に、現在恵まれた社会の中で生きていく喜びと幸せを折にふれてひしひしと感ずる時があります。冒頭の句は山口誓子が航空機で敵艦に体当たりすべく死を覚悟して基地を飛立つ若き特攻兵士を木枯に託し、伊勢湾を望み乍ら詠んだ有名な句とされ、誓子の代表作の一つに数えられています。

今私の日記の中から戦中、戦後に詠まれた同世代の人々の句を拾い出し、今尚心の奥底に眠るアジア太平洋戦争、苦難の戦後に思いを馳せることにする。

夙や焦土の金庫吹き鳴らす

楸 邨

破れ外套着し囚はれの日は遠く

葦平に従軍記あり黄砂降る

故陸軍以下の字埋まる雪の墳

「回天」の全長を抱き椎若葉

遺骨なき墓守りきて終戦日

敗戦忌捕虜の昔は語るまじ

端居していくさの傷を撫でており

兵隊と南瓜のみ乗る輸送船

瀧夜に歩哨の慾しき師団跡

歩兵二十二連隊址秋高し

学徒出陣翁らの年忘

南瓜煮て戦中戦後遠ざかる

冬凧や軍港たりし日もありき

寶石のやうなドロップ終戦忌

ここはもと大激戦地雲の峰

螢火や開拓村の五十年

シベリヤはわが虜囚の地鳥帰る

父戦死したる島より燕来る

山吹や吾とも陸軍砲兵隊

保行

比佐夫

〃

孝三

正一

栄一

正夫

太郎

淳男

孝也

博

美子

康子

せい子

昭一

和男

美信

雅風

岳夫

のもと戦友十二名と共に空腹と寒さを紛らわすため、それぞれの故郷を偲び乍ら、土曜の夜に句会を催されたのが同氏の最初の句会、俳句との出会いとのことその折の二句を紹介して稿を了えることとする。

帰りなば先ず草餅を腹いっぱい

鯨油の灯りも寒き父母の夢

（一九九八年九月記）

## 私の生きがい

近江八幡支部 第十五期生

スポレク学科 馬場

利

私は平成四年から二年間レイカディア大学のスポーツレクリエーション科十五期生として、皆様と楽しく学ばせていただきました。現在はその活動の成果を地域での活動に、また、仲間づくりにと活かして毎日の生活に励んでいます。

さて、私がレイカディア大学に入学いたしましたきっかけは、たまたま仲間との集まりの席で老人大学という、高齢者なら誰でも入学できる学校があるということを知ったのが始まりでした。八十才になっても社会参加をといわれる昨今です。体力に自信があるこの機をのがしてはと早速入学いたしました。また、二年生からはレイカディア大

最後に文芸学科十五期同期生の高島郡新旭町の角野豊市氏がシベリアで捕虜として二年間、零下四十度の山奥で鉄道の建設にかり出されていた折長谷川軍医大尉の指導

学とその名称が変更されました。感慨深い年に学ばせて頂いた事に感謝いたしております。四学科のうち、私はスポーツレクリエーション科に入って、運動やレクリエーションを習得し、地域でその楽しさを活かそうと思いい立ちました。

また一人より二人で入学した方が地域で輪が広げられると考え、友達に呼びかけ二人で入学しました。友達と二人三脚、励ましあいながら、なんとか同期の皆様方と共に卒業を迎えることが出来ました。当時スポーツレクリエーション科は米原校しかなくて、最初は遠く感じましたがJRの駅からすぐですし、車で通学しても交通量もすくなく便利でした。入学当初は一緒に入った友人のほか、知り合いもなく不安もありましたが、スポーツレクリエーション科は手をにぎりあつてのダンスやペアダンスが多く、すぐに皆さんとも友達になれました。二年間の大学生活の中で、特に印象的だったのがやはり「自然・人・ふれあい」をテーマに実施された野外活動でした。一年生の時の高遠少年自然の家でのキャンプファイヤー、厳肅な雰囲気の中で強く結ばれた友情の輪。二年生では沖繩青年野外研修場での野外活動を体験いたしました。水着を着て沖繩の海で仲間の皆様とともに海中ゲームに挑戦したり、もうすべてが初体験で満足感あふれる四泊五日でした。その時の写真は今でも水着とともに私の大切な宝物です。

校歌の一節に「響きあいつつ、明日をひらかん」とあり

ますが、私はレイカディア大学で学んだこの感動を是非友に伝えたい。そして、友から友へとその響きの輪を広げ、人生の最後をしっかりと歩みたい。自分の習った事を地域に広めようと思いい、在学中にレクリエーションインストラクターの認定講習を受け、家族の理解を得て一泊研修などもしっかり受講し、平成七年に資格認定証を手にしました。これで地域活動が出来る、レイカディア大学で学び得た事を地域で広められる、胸はって地域でボランティア活動ができる喜びもひとしおでした。キャンプインストラクターの講習も受け認定証をいただき、地域の子供会でのゲーム指導や、キャンプファイヤーのお手伝いをしております。平成七年には、学区の公民館を会場に知りあいの方々を呼びかけて、レクリエーションのグループを発足しました。いついつまでも光り輝いていこうとの願いを込めて「グループ燦燦」と名付けました。現在十五名の会員で、月二回集まって頭と体を使つてのレクリエーションに心地好い汗を流しております。昨年の学区体育祭には地域の皆さんとダンスをしたいと申し出て、公民館長の許可を得て、地域に即した題材をと考え「お米さんありがとう」と「北国の春」を発表しました。百五十名あまりの参加でした。今年も人生いろいろとキンダポルカの二曲で二百五十余名の参加で、公民館長より「大成功だったね」と云われ感無量でした。ちなみにグループの会費は月五百円で積み立てな

から、衣装やテープ等を買って踊ることに楽しみを覚え、見ていただく方にも喜んでいただき、入会者の意欲をそそのめるのではないかと思っております。此の頃は十一月一日の文化祭に向けて練習をしています。現在私は老人会や赤十字奉仕団の役員、ボランティアグループのリーダー、そして、グループ燦燦の代表者として忙しい毎日ですが、健康で活動できますことに心より感謝いたしております。また、私の活動の大きな助手は車で、運転歴三十四年七ヶ月無事故無違反の幸運な私でございます。今後其私よきパートナーとして働いてほしいと思っております。

## 輝いていたい (過去をふまえて)

中部支部 第十二期生

生活学科 野玉 一子

わたしが入学する当時は老人大学といって大津と米原にあり、米原にはスポレク科があった。これには魅力があり迷ったがやはり大津校にした。終戦直後の汽車時代、四年近く通学した若き時代の天津へ胸はずませて決断をした。図書館や電車の線路が琵琶湖岸からずっと離れ、埋立てられていて様変わりしていたが、なつかしかった。

老大二年間、地域活動のため欠席もしたが作品は数多く

残っていて、書類も入る大きなカバン、新聞等を入れるマガジラック等は今でも愛用している。美しい刺しゅうを見る度に当時の真剣に取り組んだ情熱を想起している。作品のみならず人との交わりもでき県下一円に拡がり、考え方も多角的になり生活派にも広くなった。

年齢を感じさせない「おしゃれ」も学ぶ事ができた。年齢の開きはあってもセンスの良い着こなしは個性的であった。

今まで教える立場であった運動会が演じる側になり、ドキドキしたり喜んだり残念がったりで楽しい一時を過した。「瓶起こし競争」といったかしら、倒れているビールびんをどうして起こすのか不思議だったが出来た時の喜びは一入であった。が二年目の運動会は「夫急死」でお葬式と重複、人生の明暗を分けた老大時代は悲しい転機でもあった。

海外旅行の始まりも老大OBのお誘いである。健康の許す限り何処にでも何にでも前向きにチャレンジしたいと思っている。中国老人の方達のたくましさも学びたい。

今「新高齢市民学び花咲く地域貢献講座」の手作り紙芝居に挑戦をしている。毛筆はよく持つが絵筆は小学校以来で大へんな苦闘である。でも意義深い冒険だと思っている。



# 四国八十八ヶ所巡拝の旅

中部支部 第十四期生

生活学科 河瀬 子工

昨年の六月二十三日から五日間、四国八十八ヶ所巡拝の旅に出ました。長浜、木之本方面からも来られ、八日市、八幡、甲西と県人ばかりのバス一台で大阪港から汽船で津名港に着きあわじ交通のバスに乗り第一番札所霊山寺に着き先ず必要な、おいづる、杖、納経帳、軸等を買ひ、白装束に成りいよいよお遍路の始まりです。二番三番と次々お詣りして十楽寺で宿泊です。宿に着けば先ず一番に、御大師様で有る杖を清水で洗い杖建てに建ててから靴を脱ぎます。何処迄も御大師様と同業二人で、急な坂道も永い参道も疲れる事無くお詣りする事が出来ました。先ず本堂に次大師堂にお詣りし般若心経を唱え、願いごとを書いた写経を納めます、こうして又次の寺へと忙しく旅を続けます。バスにも乗らず車も使わず自分の足で登って来られる修業僧の方にも何人か出会いました。

二回目は十月に最後は今年の六月二十五ヶ寺を巡り目出度満願する事が出来ました。これも家族や友達のお陰と感謝しています。巡拝のお陰で毎日写経をするのが常に成り、どんなに疲れていても写経をすると落着きます。

お揃いの遍路装束夕野分

巡礼の疲れを癒す萩の寺  
満願の札所老鷲迎えけり

## 高齢者の健康維持に一役

湖東支部 第十五期生

スポレク学科 小林 龍男

平成六年九月レイカディア大学米原校の、スポレク十五期生としての学習を終え、無事卒業しました。入学時から学区老人クラブ連合会の副会長を務めてましたので、折角履修した学校での体験を、地域の老人クラブで活用できないものかと考え、高齢者の健康維持増進に、フォークダンスやレクリエーションダンス、踊りを取り入れてみようという計画で見ました。高齢社会に対応して、老人クラブでは『健康、友愛、奉仕、学習』の四つの目標を実践強化する運動を展開して来ますから、その第一の健康に取り組んで行くことにして、彦根市老人クラブ連合会長にお願ひして、五月のスポーツ大会に『フォークダンス』等を演技するようう認めてもらいました。

平成七年のスポーツ大会に、まず『長生き音頭』と『お米有り難う』という二つの踊りと『キンダーポルカ』という、一番やさしいフォークダンスをお昼休みの一刻女性部主体で踊ってもらいました。初めての試みとしては大変成

功で、盛り沢山なプログラムの競技に参加出来ない方も、元氣よく手足を動かしてさわやかないい汗をかいて楽しんでもらいました。それ以後は毎年市老ク連スポーツ大会の定番として継続し、参加する人も年々増加して、三百人以上の盛況振りです。

現在彦根市内には、スポレクOBが三〇人以上居られますが、この人達にもお手伝いを願って、平素から地域の老人クラブの会合等で指導練習してもらって居る効果も見逃しません。

このようなダンスや踊りが健康に役立つのだろうか？と疑問を持つ人も有りますが、私のレイ大で学んだ体験から、自信を持って奨励して居る軽スポーツです。『寝たきり老人、痴呆老人』が増えている現在、これを予防することが急務です。年に一回のスポーツ大会にだけ踊っても、効果はありません。各地域での老人クラブ活動の中で、機会あるごとにこのような軽スポーツをしたり、身体を動かすゲームなどを取り入れて、常に手足を動かす習慣を育てることも大切です。その意味で地域の指導をお願いする、OB会仲間の皆さんと毎月一回集まって復習会をしてます。

新しい曲、忘れている曲をお互いに教え合い、指導し合いながら、地域での活動状況を交換して、高齢者向けにどんなダンスを教えようか、どんなゲームを取り入れようか

などの研究も行ってます。平成十年のスポーツ大会で、我々スポレクOB二十数名が、連続三十分の模範演技を披露しましたが、それを見た多くの人から、もっともっとダンスや踊りを指導して欲しいという要望が数多く有ります。今後益々地域の皆さんのために、色々な面でお力になりたいと考えています。

## 湖南省交流の旅

湖北支部 第十一期生

スポレク学科 堀田

肇

今回の交流の旅で、ご案内をいただき、私の脳裏に閃きましたのが、洞庭湖と岳陽でした。詩人杜甫が年老いてさすらいの旅先で望郷の念を詠じた「苦聞洞庭水 今上岳陽樓：」でした。中学四年生の時、漢文で習ったことが蘇ってきました。

関西空港から上海へ、上海から長沙へと向かいました。先ずびっくりした事は、長沙空港に於ける少年少女のブラバンドによる歓迎でした。

翌日は湖南省人民政府講堂に於て、友好提携十五周年記念式典並びに省長主催の歓迎宴会及び文芸の夕べでした。最初に、琵琶湖周航の歌の大合唱で感動しました。また、市内観光では、馬王堆漢墓陳列の湖南省博物館を訪れ、二

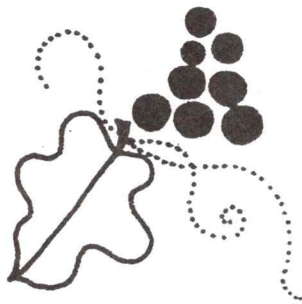
一〇〇年前の完全な女性のミイラを見学しました。

また、長沙大学近くの嶽麓書院に入ると、右側には「廉忠」左側には「孝節」の大文字が目に入り、さすが儒教の国だと思いました。

翌日は山紫水明けの地「張家界国家森林公園」を訪れました。三千奇峰、八百秀水の地で世界文化遺産になっていました。どこを見ても目を見張るばかりでした。

愈々七日、日中老人交流の日には、玄関には「熱烈歓迎」の横幕、場内は歓迎一色に包まれました。歌あり、ダンスあり、舞踏ありで、中でも「北国の春」を中国語で歌ってくれてびっくりしました。最後に「北国の春」のレクリエーションダンスを出場者全員で、二重円になり踊りました。八日には待望の岳陽楼に登ることが出来、杜甫の詩を口吟みました。

最後の夜は、見習士官当時よく渡った、なつかしいガーデンブリッジを眺め、床に着きました。実に楽しい八日間でした。



# 私と老人クラブ

高島支部 第十五期生

園芸学科 万木

伸

間もなく誕生日がくると七十五歳、とうとう後期高齢者といわれる範疇に入ることとなりました。いつの頃からか新聞の死亡記事欄に毎日目を通すようになったが、半数以上の人が自分より若い年齢で亡くなっているのを見るにつけ、この年までたいした病気もせず、つつがなく過ごせていることに感謝しています。

それと言うのも、常に健康に留意してゲートボールやグラウンドゴルフなど適度な運動を続けているのは勿論のこと、今まで老人クラブ等地域での役をいろいろ与えられてきたため、常時気を張りつめてきていることも、元気でいられる源の一つではないかと考えています。

私は平成二年六十七歳で、それまで勤めていた会社を辞め四十余年のサラリーマン生活にピリオドを打ちました。六十歳を過ぎた頃から地区の老人会長さんから再三老人クラブへの入会を勧められてきたのに、勤めの身で時間の余裕が無いので断り続けていたため、これを機にとにかくも老人クラブ会員となったわけです。

ところが、老人クラブについて何の知識もない一年生でありながら、入会早々会計担当に指名され、新前ゆえにと

お断りしたものの聞き入れられず、やむなく引き受ける羽目となったところ、なんとこれが皮切りで、以後老人クラブとこんなに深い関わりを持つことになろうとは、その時点では全く想像もしなかったことでした。その関わりとは、次のとおりです。即ち、

平成三年四月～五年三月…… 単位老人クラブ会計

平成五年四月～七年三月…… 単位老人クラブ会計

平成六年四月～十年三月…… 町連合会事務局担当

平成九年四月～ 単位老人クラブ会長

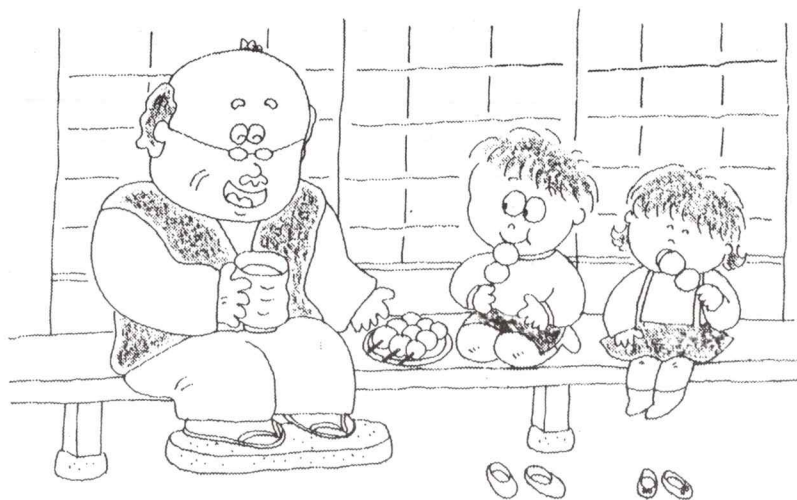
平成十年四月～ 町連合会会長

と、途切れる事なく何かの役についているという状態が続いています。

今、会員数僅か七七〇人という極めて小じんまりした「高島町老人クラブ連合会」ではありますが、甲斐性も無いのに会長を任されており、ともすれば、その重圧に押しつぶされそうになりながら、何はともあれ現張らねばと思っています。







## 編集後記

本年は開校二十周年であり、記念号となるよう内容の充実に努めました。

二十年の歴史に始まり、次いで在校当時の思い出・エピソードについて、大先輩に記念号にふさわしい執筆を賜り有り難うございました。又支部便りでは、各支部の事業活動を中心とした報告を戴き、今後、支部運営の参考になれば幸いと存じます。

随筆では生涯学習を通じての地域活動なり、趣味について見識ある貴重な体験発表をして戴きました。

学校長を始め関係各位には、公私何かとご多用の所ご投稿を賜り厚くお礼申し上げます。

当会報が、今後、同窓会活動の発展、地域社会への貢献そして支部活動の活性化に繋がれば幸甚です。

なお、支部長、広報部諸氏のご協力に感謝申し上げます。

(広報部長 岩井 典弘)

